

イスラームと日本

過去と現在の諸問題における イスラームの解決方法

イスラームの教えと日本文化—発展、文明化
の要因となった—との共通点



ムハンマド・アルサイエド著



イスラームと日本

過去と現在の諸問題におけるイスラームの解決方法

まことにアッラーは公正、心尽くし、近親への贈与を命じ給い、醜行、忌むべき行為、侵害を禁じ給う。かれはおまえたちに訓戒し給う、きっとおまえたちは留意するであろう。(蜜蜂：90)

イスラームの教えと日本文化 - 発展、文明化の要因となった - との共通点

ムハンマド・アルサイエド 著

菅野啓太 訳

Fatima.S 校正

目録

➤ 目録.....	2
➤ 序.....	4
➤ イスラームとは.....	6
➤ イスラームの宣教.....	9
➤ イスラームの信仰.....	10
➤ 自己への教育とその清め.....	29
➤ 人間の尊厳とその生活の保持.....	30
➤ 連帯と平和への誘い.....	31
➤ 女性の尊厳.....	33
➤ 子供たちへの教育とかれらへの慈悲と慈愛.....	36
➤ 若者たちへの関心.....	38
➤ イスラームと被造物（動物、鳥、木々、植物）への慈悲と慈愛.....	39
➤ イスラームと学問への招待.....	41
➤ イスラーム共同体「誦め」.....	46
➤ イスラームとその他の諸宗教.....	47
➤ 非ムスリムに対する善き接し方.....	48
➤ イスラームにおける兄弟愛.....	49
➤ 戦時における寛容さ.....	50
➤ 戦争捕虜に対する接し方.....	52
➤ 静寂な宗教儀礼、高貴な道德、理知的人間関係、力強き体系.....	53
➤ 現世における試練や困難、諸現象とその対応策.....	56
➤ 預言者ムハンマドﷺ（の）教友たちへの教え、実践、固執.....	58
➤ イスラームと諸問題への解決方法.....	82
➤ 日本における覚醒と発展、進展と文明化のあとに待っているもの...101	

- 何故イスラームなのか..... 104
- イスラームを選択することの来世での結果..... 107
- イスラームへの入信方法..... 110
- ムスリム兄弟姉妹への提言..... 111



序

万有の主アッラーにこそ讃えあれ、天と地、闇と光の創造主。アッラーの他に神はなく、ムハンマドﷺ（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ。以下同様。）は、そのしもべであり使徒であることを証言する。最後の預言者であるムハンマドﷺにアッラーの平安と祝福がありますように。そしてかれの最良で純潔な家族、一族、そしてその教友たち、そして審判の日まで信仰を守り通した者にアッラーの平安と祝福がありますように。

至高のアッラーは、最後の預言者であり、使徒であるムハンマドﷺを遣わされ、かれとともに純粋な信仰心と平穏な崇拝行為、力強い掟が内包されたイスラームという宗教を下された。

イスラームは高貴な教え、健全な導き、高貴な品性、人間関係における英知、そして良識を命じ、悪を禁じ、知識と学問を重んじ、人間の生活のすべての分野において進展を推奨する。初期のムスリム（イスラーム信徒）たちはイスラームの教えを真摯に実践し、至高のアッラーのご満悦を得た。このことは、かれらの文化圏において発展、進歩、文明化の要因となり、広範におけるイスラームの宣教につながり、短期間のうちに人々は次々とイスラームに入信していったのである。

また当時のムスリム大学者たちだけでなく、私たちが生きる現代においても、さまざまな科学分野におけるムスリム専門家たちの手による崇高なる貢献と新たな発見、解明が報告されている。

ここで、私たちが生きる現代において、もう一つの模範例である日本の例を見てみよう。

日本は第二次世界大戦後の見るも無残な状態から自国を救いだした非常に珍しい例であり、イスラームの教えに通底する多くの法則を適用することによって、国を再生させ、自国を成長、発展、そして文明化へと導いたのである。

本書で焦点を当てるのは次の二点である。

イスラームと日本、過去と現在の諸問題におけるイスラームの解決方法

1. イスラームの教えに通底する原則をどのように適用し、新たなる日本の覚醒へと導いたのか？その後の発展、文明化の鍵となったものは何か？

2. 日本の覚醒と発展、文明化のあとに待っていたものとは？日本に欠けているもの、日本が必要としているもの、発展を無に帰することなく、現代日本が抱えている諸問題を解決できるものは何か？

至高のアッラーが私たちの仕事を真に評価し、私たちを高めて下さいますように。また私たちに崇拜行為の扉を開き、私たちを導いて下さいますように。そしてかれこそは、私たちを見守って下さり、かつ万能なるお方であられる。



イスラームとは

イスラームとは

イスラームとはアラビア語で降伏、服従、あるいは理性、精神、身体による心からの安らぎという意味である。次のような問いについて考えてみよう。

至高の創造主アッラーは、完全なる無の状態から神のしもべである人間を、最も優れた姿、形に創造された。そのような人間、つまり被造物に、創造主の存在、権能を正しく認識し、その偉大さと徳について知り、かつアッラーの命令に服従することができるのだろうか？理性による服従

一切の無からすべてを創造した至高の創造主アッラーの存在、その唯一性、その偉大な権能とその唯一である神性を信じてみる。その偉大さに相応しいいかなる不備、欠陥もない

—創造主のみを信じるのである。

すると人間は、はじめから自分自身に、いかなる不備、欠陥も持ち合わせない完全なる神の姿を想像する天性が備わっていることに気が付くのである。この世界における偉大な被造物の数々—人間の創造、天地の創造、また山々、大海、河川、動物、植物の創造など—を目にすると、特に私たちは神について考える。そして、もともと私たちに備わっている清純な天性と純粋な精神、健全なる精神は、このような神という概念を容易に受け入れることができる。

たとえば、ここに称賛すべき素晴らしき品性、性質を備えた皇帝が存在するとしよう。すると私たちは、その皇帝の生活、所有物も豊かなものなのだろう自発的に想像するし、同様に、もし素晴らしい外観の豪邸があるならば、その内部も考える限り最も素晴らしいものだとして想像するはずである。

これが私たちのような人間、しもべである一つの被造物であったなら、もしくは何か実在する作品のようなものであったなら、それらが無から創造した創造主についてどのような想像ができるであろうか？

崇高かつ至高のアッラーが私たちに齎したこの偉大な恩恵—理性という恩恵—によって私たちはその存在、その唯一性、その偉大な権能を信じる信仰へと辿り着くことができるのではないだろうか？

心と精神による服従

創造主への愛、畏敬、崇高、そして敬意の念。

身体による服従

創造主の命令に対する服従。

このような服従は、創造主への愛と、かれのご満悦を求める気持ち、そして永遠の住まいである楽園を獲得するという希望、かれの怒りに対する畏怖の念、激しい懲罰である火獄からの救いへの希望から生まれる。現世の生活は、人間を真の意味で幸福にすることも不幸にすることもなく、一時的な儂いものであり、来世に対する試験の場に過ぎない（その報奨は永遠の楽園であり、その懲罰は烈火のごとき火獄である）。

また至高のアッラーは、私たちが悔悟し、信仰し、その唯一性を認め、かれに縋り、かれに何者をも配さなければ、私たちの崇拝行為を受け入れられ、満足され、私たちの罪、過ちを赦し給われる。

イスラームの語源

イスラームの原義は平安、安全、安らぎであり、イスラームという語もサラーム（安全、信頼、安らぎ）という語から派生したサラマの派生語である。

したがってイスラームとはすべてを包括する平和の宗教であり、平和、安全、信頼に基づく、不幸、不正、圧政なき、大きな恩恵でもある。

私たちはイスラームによって精神的平安という恩恵を受けることになる。至高のアッラーを信じること、良き信仰心によって精神的平安は達成され、イ

イスラームと日本、過去と現在の諸問題におけるイスラームの解決方法

スラームが齎した高潔な教え、導きの光によって、私たちは確信に満ち、心が平安で満たされ、生活も安定したものになるのである¹。

至高のアッラーは仰せられる。

(悔いて戻る者は) 信仰し、アッラーの思念によって心が安んずる者たちである。アッラーの思念によって心は安んずるのではないか。(雷：28)



¹関心のある方は以下のリンクにアクセスすると、日本語で読むことが出来る。
- <http://www.way-to-allah.com/jp/miracles/new/TheTailboneMiracle.html> を参考。
- <http://www.islam-guide.com/jp/>
- <http://www.islam-guide.com/jp/frm-ch1.htm>

イスラームの宣教

イスラームは清純な天性、純粹な精神、私たちの理性が了解し、受け入れられるすべてのものを推奨している。

● 理性に反するいかなる疑念もない信仰、また健全な理性がたやすく受け入れることのできる信仰への推奨

● 人間の自己を高める平穩な崇拜行為の推奨

● すべての人間の生き方を真っすぐにする力強き法（掟）と人間関係における英知、高貴な教えの推奨

● 知識と学問、そして人間の生き方において人間を覚醒させるものの推奨

● 平和、中庸性、中立性、そして取り決め、協定の順守

● すべての善と良識へと導く路、またすべての悪と悪へ導くものを避けること

● 公正、良識、血統関係への推奨、そして不正、不幸、腐敗、悪しき行いを避けること

至高のアッラーは仰せられる。

まことにアッラーは公正、心尽くし、近親への贈与を命じ給い、醜行、忌むべき行為、侵害を禁じ給う。かれはおまえたちに訓戒し給う、きっとおまえたちは留意するであろう。（蜜蜂：90）



イスラームの信仰

イスラームは私たちの理性に光を与える清浄な信条を齎し、創造主の荘厳さ、偉大さにふさわしい知識を与える。イスラームの求めることは以下のとおりである。

● 創造主アッラーの存在、その善き属性、その唯一性への信仰

この世に生まれてきた者は、この世のあらゆるものを無から創造した創造主とその神聖な唯一性を信じる天性が備わっている。その証拠に、もしこの世に生をうけ、いかなる外的影響も受けずに育ったならば、私たちは以下のことを容易に受け入れることができるだろう。

(1) アッラーが私たち人間に授けられた天性は、創造主を信仰する性向を有している。それは唯一の創造主への信仰へと導く。創造主は力強く、圧倒的で、その創造において全能である。少しでも理解のある人間ならば、私たちが必要に迫られた時、あるいは助けを求める際に、神よ、主よ、創造主よ、お救いください、幸運をお与えください、どうか日々の糧をお与えてください、見捨てないでください、などと叫ぶことを知っている。しかし、神様たちよ、主たちよ、創造主たちよ、と複数人の存在を想定しながら助けを乞う者はいない。これは、私たちが、創造主という存在は唯一の存在であるべきことを天性のうちに認めていることを示している。そしてそのような存在こそが、すべてを無から創造した創造主アッラーである。

(2) 人間は全能で賢明な唯一の神の存在に心の底から憧れ、かれの命令に服従することを切望する。もし複数の神が存在し、神の命令がそれぞれ異なるものだったら、弱き被造物に過ぎない私たちしもべは一体何を信じれば良いのか？一体どの神の命令に従い、付き従えば良いのか？そのような場合、複数の神のうち一人の命令に従い、服従し、たとえその神のご満悦を得たとしても、別の神のご満悦は得ることができず、今度は別の神の怒りを買って、懲罰の原因にもなり得る、ということである。これは矛盾であり、受け入れることはできない。これは全能の神は唯一の存在であることを示している。

たとえば、一人の主人に所有されるしもべがいたら、かれはその主人の命令を聞き、その教えを守っていれば、問題は生じない。しかし、もしかれが複数の主人に売買され所有されていたとしたら、かれはすべての主人の命令、教えを同時に守らなければならない。果たして、そのようなことが可能だろうか（もちろん否であろう）。

なぜなら、一人のしもべに対して一人の主人のみがいるならば、そのしもべは主人の満足を得ることだけを考えれば良いので、その心は軽くストレスに悩まされることもない。しかし、一人のしもべに対して複数の主人がいたならば、しもべは混乱し、その心は重く、主人

(たち)の満足は得られず、主人からの叱責を絶えず気にするようになるだろう。なぜなら、複数の主人の異なる命令に、同時に応じることは不可能であり、かれがどれだけ努力しようと、どちらか一方の主人の命令はおろそかせざるを得ないからである。

(3) 次の四つの問いに対して、人間の理性は適切な回答を与えうるだろう。

- ① だれが私を創造し、私を見出したのか？
- ② その創造主の属性とは？
- ③ 私を創造した理由とは？
- ④ 創造に隠された英知とは？

人間に生まれつき備わっている天性、もしくは人間の精神、心、理性を駆使するならば①の問いに、容易に次のような回答が与えられるだろう。私を創造した存在、それは力強く偉大な神でなければならない。なぜなら、何かを生じさせる存在なくして、何かが自発的に生じる、ということは想像できないからである。何かが存在すれば、必ずそこにはそれを生じさせた何かが存在し、製造物にはすべてそれを製造した者が存在し、被造物にはすべてその創造主が存在するはずである。したがって、人間は創造主の存在を信じることができる。それは目に見えないかも知れない、しかし私たちは、この世界で数々の創造のしるしや痕跡を目にすることができるのである。

例を挙げてみよう。

私たちは魂を目にすることはできない。しかし、その影響力によって、魂の存在を信じることができる。同様に、私たちは理性を目にすることはできないが、私たちの思考能力、熟慮する能力によって、理性の存在を信じることができる。また重力それ自体を実際に目にすることはできないが、引力という影響を感じれば、重力が実際に存在するという事も信じることができるのである。

人間に生まれつき備わっている天性、もしくは人間の精神、心、理性を駆使するならば②の問いにも、容易に次のような回答が与えられるだろう。私を創造した創造主、それは複数の存在ではなく、唯一の存在でなければならない。

1－宇宙を創造し、すべてを見出した存在とはどのような存在だろうか、と私たちが自ら問うとき、その論理的回答は、そのような存在とは、すべてを創造できるだけの権能と能力を備えた存在でなければならない、というものだろう。しかし何かが存在する限り、それを存在させたものがあるという因果律に照らし合わせてみるならば、そのような権能と能力を備えた存在を創造した者は誰だろう？というように、このような問いは永遠に繰り返され、終わることがない。この問いに対する回答も、同様に強大な権能と能力を備えた存在、というものなのだろうか。そうであるならば、この問いは無限に繰り返され、永遠に真の回答に辿り着くことはできない。これは最初の回答が論理的でなく、誤ったものだったからである。

したがって、この問いの回答は次のようになる。宇宙を無から創造し、他のすべての被造物を創造した存在は、強大な権能と能力を兼ね備えた「唯一の」存在でなければならない。これこそが、人間の理性が受け入れることのできる唯一の論理的な模範解答である。

2－ここに複数の創造主が存在し、それぞれの創造主に独立した個別の意志が備わっていると仮定してみよう。もし一人の創造主があることを望み、もう一方の創造主がそれとは正反対のことを望んだら、一体どのようなことが起こるだろうか？次の三つの可能性が考えられる。

ア 二人の創造主の望んだこと、その両方が起こる。しかしこれは論理的にあり得ない。それは、ある物体が動いていると同時に動いていない、と言っているようなものだからである。

イ 二人の創造主の望んだこと、その両方が起こらない。しかしこれも論理的に考えておかしい。なぜなら、創造主の強大な権能と能力を備え持つという属性に矛盾するからである

(創造主が望んだことは必ず起こらなければならない)。

ウ 一方の創造主が望んだことのみが起こる。そしてこのような創造主こそ真の創造主であり、すべてを無から創造した全能の創造主たりうるに相応しい。それ以外は創造主ではあり得ない。

このような仮定から、創造主が複数存在することは考えられず、唯一の創造主は望んだことすべてをなしうる全能なる創造主であることが帰結する。

3 — もし複数の全能なる創造主が存在し、ときにはある創造主が他の創造主に打ち勝ちときにはそれとは逆のことが起こるのだとしたら、天地には腐敗が広がり、私たち人類を含む他の被造物とこの世界の崩壊が生じたことであろう。

しかし、もしそのようなことが起こらないならば、それは唯一の創造主が存在するということになる。かれこそは力強く強大で、すべてを支配する全能の支配者である、崇高かつ至高のアッラーということになる。

たとえば、もしある国が別の国に侵攻し、その国を支配化におくチャンスがあるならば、そこには必ずそのチャンスを得るための争いがあり、闘いがあるだろう。そして最終的に何者かがその闘いに勝利し、支配者の地位につき、一つの国として独立する。そうでなければ、その国に平安は訪れないであろう。また、もしある国に複数の首相、複数の大統領がいるとしたらどうだろうか？ 果たして、その国はうまく機能するであろうか？

もちろん、否であろう。間違いなく権力争いが起こり、その国は正常に機能せず、秩序を失い、発展を妨げるであろう。いかなる国でも、国を治める

人間は一人であることは自明である。これは、宇宙についても同様に、創造主は一人であることは必然的に帰結するのである¹。

したがって②の問いである神の属性とは何か、に対する回答は次のようになる。イスラームは明晰判明な回答を私たちに与えた。イスラームは唯一の創造主であるアッラーを信仰するよう説き、そのアッラーは秀麗で、偉大である。また、その諸属性はすべて善であり、完全であり、なおかつ荘厳で、いかなる欠陥とも無縁のものである。アッラーの諸属性は以下のとおりである。

(永続性)：崇高かつ至高のアッラーは、かれ以前にいた者もなければ、そのあとに続く者もない永遠の存在である。アッラーは、うつつを抜かすことなく、眠ることもなく、生存し、決して死ぬことのない御方であられる。ときや場所という次元に左右されることなく、かれこそが時空の創造主である。

(全能性)：崇高かつ至高のアッラーは、完全なる能力の持ち主である。したがってアッラーが、あれ、といえば、すなわちある。その全能性のしるしは、数えきれない程存在する。

(魂、理性、心、その他の複雑な身体構造、また被造物を含む宇宙を創造した、等々)

(知識)：崇高かつ至高のアッラーは大学者であり、その知識は広大かつ完全で、時空（過去、現在、未来）を超越する。かれこそは、すべてを無から創造した崇高かつ至高のアッラーである。

(英知)：崇高かつ至高のアッラーは、賢明なる者であり、その英知は計り知れず完全である。

(意志)：崇高かつ至高のアッラーは、その完全なる英知と知識によって公正かつ穏便に自らが望むことを行われる。

(赦し慈悲深く、寛大)：崇高かつ至高のアッラーは、赦すことを好み、慈悲深く、寛大であり、私たちが自らの罪、過ちを心から悔悟し、アッラーの

1-関心のある方は以下のリンクにアクセスすると、日本語で読むことが出来る。
https://www.islamic-invitation.com/book_details.php?bID=1664&fbclid=IwAR3Bvz61LXo_qH-KpX-MP_7uAamGKVGt-s9ItwR3Dw2AYYU72Y2nvEjIV_Y

命令を守る限り、アッラーは私たちの罪、過ちを赦される。そして、栄誉を与えられ、ご満悦され、永遠の楽園に入れて下さるのである。

(正義と公正)：崇高かつ至高のアッラーは、正義と公正を好み、決してその崇拝行為において私たちを不当に扱われることはない。そして誰も他人の罪で責めを追われることはなく、父親、母親であっても例外ではない。私たちは自らの責任のみを負うのである。そして審判の日（死後に現世の行いについて問われる日のこと）には、たとえ微塵の重さでも善行を行った者はそれを見、たとえ微塵の重さの悪行であっても、それを見るのである。

(平安)：崇高かつ至高のアッラーは、平安を好まれ、現世での平安を崇拝行為によって実現されることを望まれる。そして崇拝行為によって、不正を禁じ、悪行を禁じ、平安と安全を望まれる。私たちはこのイスラームの挨拶における英知を理解することが望まれる。それは平安であり、ムスリムはお互い「**アッサラーム・アライクム**」と挨拶をし、その返事は「**ワ・アライクム・サラーム**」であり、これによって心は平安に満ち、安らぎの気持ちが生じるのである。

イスラームは崇高かつ至高のアッラーの並び立つものがない、その完全性、美しさ、荘厳さ、偉大さ、力強さ、能力、完全なる知識と英知を明らかにしている。

またイスラームは創造主アッラーに相応しくない侮辱的で醜い属性、アッラーを人間の性質と結び付けることを禁じている。崇高かつ至高のアッラー、かれこそは、人類、またその他の被造物を創造した崇高かつ至高のアッラーであり、人間のように飲食する必要もなく、睡眠も休憩も結婚も子孫も必要としない。

またイスラームは創造主に対して人種的属性を与えることも禁じている。かれは崇高かつ至高のアッラーであり、特定の集団、共同体、国民のために存在するのではなく、全世界すべての創造主である。したがってかれを受け入れ、信仰し、その命令を守り、かれに悔悟し赦しを乞えば、かれは誰に対しても慈悲の扉を開かれ、ご満悦され楽園に入れて下さる。かれこそは、荘厳かつ至高の正義と公正の神であり、崇拝行為において信徒を不当に扱うことはない。ア

ッラーの許では誰もが平等に扱われ、畏怖の念と崇拜行為を除いては、ある者が上で、ある者が下、というような優劣は存在しない。

またアッラーには息子がいると言ってみたり、同伴、妻がいるなどと言ってはならない。かれは全宇宙の創造主であり、生まれたのでもなければ、かれの前に誰かが存在したというのでもない。崇高かつ至高のアッラーは生まれもしなければ、生みもせず、誰もかれに値するような者はいない。かれこそは無からすべてを創造した創造主であられる。

したがって、かれに息子がいると言ってみたり、他の被造物のように、母親の腹の中から産み落とされ、大きく育つまでは授乳、庇護を必要とし、死後は土に帰る、などという主張は容認されるべきではない。かれは創造主という属性の持ち主で、健全な理性の持ち主ならば、このような中傷は到底受け入れることはできない。それは根拠なき幻想、妄想によって打ち立てられた妄信へと導いてしまうのである。

創造主である神に人間の息子、もしくはその他の被造物と同様の性質（人類よりも高貴な存在である天使、あるいは霊、あるいは人類に知らされていないその他の被造物）といった属性を与えることができないのは何故か？

それとも人間の性質と動物の性質を等しくすることは可能なのだろうか？ また人間が雌牛やその他のさまざまな動物と結婚する、そして人間と動物の性質がそれぞれ半分ずつ与えられる、などということが可能なのだろうか？ そして動物の性質が人間の性質の一つに加えられるなどということが可能なのだろうか？ そのようなことを純粋な精神は受け入れられるだろうか？

もちろん、答えは否であろう。至高のアッラーは、他の被造物よりも人間に大きな栄誉を与えられ、最も高貴な地位を与えられたが、このような妄想は倫理的退廃を招くものであり、人間の価値を貶めるものである。

人間と動物の性質を比較してみても不可能なのだから、人類とその他の被造物すべてを創造された崇高かつ至高のアッラーを比較することはできるだろうか？ 純粋な精神は神の属性と人間の性質を一緒にするなどという主張を受け入れることができるだろうか？

もちろん、答えは否であろう。これは神に対する中傷、冒瀆であり、神の価値を貶めるものである。かれは崇高かつ至高のアッラーであり、人類とその他の被造物の創造主なのである。かれは生みもしなければ、生まれもせず、唯一の単体（分解せず）であり、かれに代わる者はなく、かれを代表する者、類似した者も存在しない。

イスラームは至高の創造主アッラーに榮譽を与えることを説き、石像や銅像を作ることによって蔑むことは許されない。至高のアッラーが人間を無から創造したあとに、人間が無謀にもそのアッラーの姿を模した銅像を建てる、などということほどでたらめなことがあるのか。

創造主であるアッラーは被造物である人間が考え得るいかなる姿、形よりも偉大で崇高なのである。

また私たちは人間がそのような銅像を作ることによって、次第に私たち自身の意識がそのような銅像に傾き、価値を与え、しまいにはその銅像に向かって拝みはじめるのを目にするのである。そして、真の創造主であるアッラーを差し置いて、その銅像に向かって祈りはじめるのである。

したがってイスラームはそのような創造主に何らかの形象を与えることを禁じ、石像や銅像を建てることによって神の代わりとすることを禁じられた。

③私を創造した理由とは、に対する回答は、イスラームの論理的必然性によって次のように導かれる。人間は、アッラーを崇拜し、アッラーに服従するために創造された。そして人間は、アッラーの教えと導き、かれの命令に従い、禁じられたものを避け、アッラーの法に従うことによって啓蒙される。これはアッラーが現世—この世に生を受けてから、その生を全うするまでの期間—において人間に課した試練であり、その意味において現世は試験の場なのである。

そしてこの試験は大きく二つに大別される。その二つは以下のように要約される。

1 第一の試験—試験の大部分を占める—は、人間が創造主を信仰し、その存在とその恩恵を認め、神の神聖を（他の者を並びたてることによって）侵

すことなく、その一生を全うできるか、それとも神の存在、恩恵を否定し、他の者を神に並び立ててしまうのか、が試されていることとなる。

この第一の試験は、いわば第二の試験の土台となるものである。第一の試験を通過すれば、第二の試験の被験者となることができるが、第一の試験を通過しなければ、そもそも第二の試験は意味を成さない。

2 第二の試験は、その創造主である神を崇拝し、かれが求めるやり方によってかれに服従し、かれを尊崇できるか、それとも怠惰にもかれを崇拝せずかれの命令に服従することなく、その恩恵に感謝の意を示さないのか、が試されることとなる。私たち人間は、アッラーが与え給うたその恵みに感謝し、災害、困難による試練に耐え忍ぶことができるのか、それとも神への感謝を忘れ、さまざまな災害、困難を含む試練を耐え忍ぶことができないか、のどちらかである。

この第二の試験に合格し、かつ第一の試験にも合格できれば、至高のアッラーの赦しによって永遠の楽園に入れられる。それは努力した者だけが辿り着くことのできる場所であり、権利でもある。楽園ではアッラーはかれらの努力にご満悦され、恵みが絶えることなく降り注がれ、不平不満はなく、それは永遠に終わることがない。

しかしこの二つの試験に合格できなければ（崇高かつ至高のアッラーの公正さによって）、

アッラーの怒りに値し、楽園行きを拒否され、激しい懲罰が待つ火獄へと送り込まれることになる。

試験期間：物心がつく年齢（結婚、妊娠が可能な時期）から、この世を去るまでの人生すべての期間である。

試験の基準：崇高かつ至高のアッラーは、その者の能力以上のことは課せられない。それは崇拝行為においても、同様である。したがって崇高かつ至高のアッラーが用意された試験は、知性と理性を持つすべての者に課されるのである。試験における具体例：至高のアッラーは人間を、ある者は身体的に正常で正しい仕方において創造され、その糧を与えられ富者にされ、ある者は病弱で、身体的正常の機能を欠いた障がい者として創造され、貧者とされた。こ

のような場合、前者の者たちにとっての試験は、唯一の創造主とその神聖さへの信仰心ののちには、与えられた恩恵に対して正しく感謝の念を示せるか否か、ということになる。それは病人や障がい者の援助をしたり、貧者、困窮者に慈悲の念を示したり、アッラーが与え給うた糧を、どれだけかれらと一緒に共有できるか否か、という意味である。またその偉大な英知を信じ、可能な限りその命令に従うこと、このような行為は神の許で報奨として計算される。そうすれば、この試験の合格者として、楽園行きの勝利者となり、神のご満悦にあずかることになる。しかしもちろん、かれら－アッラーから糧を十分に与えられ富者をされた者たち－がまったく逆のを行う可能性も考えられる。

また後者の者たちに関しては、試験は唯一の創造主とその神性さへの信仰ののちに、崇高かつ至高のアッラーが課された試験、災難、困難に耐えられることができるか否か、ということになる。かれらはアッラーの偉大な英知を信じ、短い現世の生活において可能な限りかれの命令に従うことによってアッラーの許で報奨として計算（清算）され、（秤に掛けられ）試験の合格者として楽園行きを許され、神のご満悦にあずかることになる。あるいは、それとは逆のを行う者たちとなるか。

試験におけるもう一つの具体例：至高のアッラーは私たちに害し、害悪の要因になるものを禁止され、すべての益となるものを許可された。たとえば、イスラームでは病気の一因となる豚肉の食用（このことはすでに近代科学によって証明された）を禁止され、その解決策として別の動物の肉、たとえばラクダの肉、牛肉、羊の肉、ヤギの肉などの食用を許可された。このことは多くの鳥類についても同様である。また至高のアッラーは、理性の喪失、そして品性の悪化、獸的行動や振舞いを助長するワイン等の摂取を禁じるが、人間の身体に益となる飲料水、ヨーグルト、さまざまな種類の果物ジュース等の摂取は許可されている。崇高かつ至高のアッラーは、人間の各人の能力を考慮され、人間にとって害悪になるものと有益なもの、そして人間にとっての正しいこと、を明確にした上で現世という試験の場を準備されたのである。

崇高かつ至高のアッラーに対して人間はこの試験に答え、その命令を実践し、禁止されたものを避けることができるのか、もしくはアッラーの命令に反し、自己を欲望のままに任せ、身を亡ぼしてしまうのか、が問われている。

重要ポイント：崇高かつ至高のアッラーは、自らが用意したこの試験の結果を事前に知っておられる。アッラーこそは崇高かつ至高の創造主であり、人間を無から創造し、人間について人間自身よりもよく熟知しており、人間が何を思考、信仰し、どのように振舞い、行動し、何に対して服従、もしくは反抗するか、という点をよく知っておられる。創造主アッラーの知は全知であり、かれに類似するものは何もない。

ここで2つの問題について考えてみよう。崇高かつ至高のアッラーは、この試験の結果を始めから知っておられる。そうならば、何故火獄に値する者は火獄に、樂園に値する者は樂園に、この試験を行うことなく直接入れられないのだろうか？

これらの試験を用意した神の英知とはどのようなものだろうか？

答1：もし火獄に値する者を直接に火獄に入れたのなら、かれはどうして私を火獄に入れたのだ？私が何か罪を犯したとでも言うのか？もし私が神によって被験者になったと（事前に）知っていたなら、どうして虚偽を行い、かれに逆らおうか、などと言いついたであろう。

仮に、一人息子をもつ父親を想定してみよう。息子は勉強に関心がなく、父親の助言、忠告にも関わらず、身を入れて勉強に励むことがなく、年度末には試験があることが分かっており、父親はこのままでは息子が試験に受かることはないと感じている。このような場合、無関心な態度、勉学に励まないという息子の態度は、息子自身に起因するものだろうか、それとも父親の忠告の仕方が原因なのだろうか。しかしそれでも、父親は判断を猶予し息子を励まし続け、罰を与えることはしない。なぜなら、もし父親が試験、もしくは試験結果の出る前に息子に手を出していたなら（体罰、虐待）、息子は学校で習ったことはすべて理解、暗記していたから、復習する必要はなかった、などと虚偽の証言を行ったかも知れないからである。そして、何故私を罰したのか、などと逆らったであろう。

崇高かつ至高のアッラーこそが最高の模範である。私たち人間の状態はすべて熟知しているにも関わらず、その完全なる英知によって、猶予し、鼓舞し、忠告する（諸預言者、諸使徒を遣わすことによって）のである。それは人

間に対するアッラーの愛情であり、唯一の創造主とその神聖さに対する人間の信仰心、崇拝行為、人間の命令に従う姿に満足され、楽園に入れられるのである。また人間が嘘をついたり、アッラーの存在を否定し、他の神を並置したりすれば、そのような行為に対してお怒りになり、懲罰を用意する。そして審判の日には、誰にも言い訳を与えない。

イスラームでは、至高のアッラーは正義であり公正であって、人間の崇拝行為において誰も不当に扱われないことを明らかにしている。そしてすべての被造物（人間だけにとつてではなく）にとつて、かれこそが最高の明証である。そして至高のアッラーの英知によつて、審判の日に、現世で信じた者、現世で行つたすべての行為について問われるのである。そして現世での行いは審判の日における証言になるのである。またそればかりでなく、人間の皮膚、手足、すべてがその者が現世で行つた行為の証明となり、アッラーに対して誰も言い訳できる者は存在しない。

そして現世という試験のあとに楽園に入ることが許された者は、至高のアッラーの恩恵に心から感謝し、かれの導き—かれを崇拝しかれに従うことができたこと—に感謝するのである。（人間は崇高かつ至高のアッラーからの導き、助力、援助なしには何も行うことができない）そして試験の合格者のアッラーへの愛情、アッラーへの感謝の念は増大する。

答2：英知、学知あふれる崇高かつ至高のアッラーは人間を推し量るために、このような試験を用意された。（唯一の創造主アッラーとその神聖さへの信仰心、崇拝行為、服従、もしくは、欺瞞、唯一性の否定、反抗）そして人間の信仰の度合いを推し量るためである。その後、祝福された至高のアッラーは楽園を準備され、楽園をいくつかの段階に区分された。それは現世でのムスリムの信仰、努力の度合いによつてその住まいを分類するためである。そして楽園のほかにも火獄を用意され、火獄にも努力の度合いに応じていくつかの段階を用意された。

このことは私たちの日常世界においても、見られることである。つまり、どこにしようとも私たちは常にその努力を推し量る手段として、ある種の試験、テストが存在し、試験によつて私たちの能力、適正が判断され、適切な大学、もしくは学部編入されるのである。それは働く場においても同様である。も

もちろん、試験に合格しなかったからといって、その人が無価値であるということとは関係がない。誰が最もその地位により相応しいかということである。

④の問い、創造に隠された英知とは、に対する回答は次のとおりである。

まずイスラームでは至高のアッラーは、すべてを熟知され英知溢れる知性の持ち主であることを明らかにしている。そしてかれが望まれること、行われることは徳と公正さであり、その学知、完全性、英知によるものである。

そして崇高かつ至高のアッラーは、人間を創造する前に天使を創造された。そして天使たちに崇拜行為、服従、無反抗という天性を付与され、私たち人間のような自由意志を持たない存在とされた。したがって天使たちがアッラーの命令に従い、無反抗なのはその天性故であり、必然的な結果なのである。そして天使たちの創造のあとに、別の種類の一自ら善いことも、悪いことも選ぶことができる自由意志を持ち、それゆえ唯一の神を信仰することも、他の神を信仰することも、またアッラーの命令に従うこと、反抗することの両方もが可能な一新しい被造物を創造されたことは、至高のアッラーの英知である。そしてその報奨として楽園を創造され、その懲罰として火獄を創造された。楽園、火獄にもいくつかの段階が存在する。

創造主アッラーの偉大さが明らかにされたので、ここではもう一つの問いに対して考えてみよう。

イスラーム宣教未到達の土地に生きる者、また知能に欠陥のある者（狂人）、まだ物心のつかない幼い子供たちの審判の日における末路とは？

答：イスラームの宣教が未到達の土地に生きる者、たとえ宣教が届いていたとしてもその意味を理解できない知能に欠陥のある者、狂人などは、その能力に基づいて審判の日に清算がなされる。（そしてかれこそは崇高かつ至高のアッラーであり、試験の結果は熟知されている）いかなる者も、その創造を理由に審判を逃れることはできない。それは至高のアッラーによる他の被造物、そして人間の崇拜行為は、現世において既に試験によって試されており、誰も不当に扱われることはない。審判の日の清算は、正義者であり公正者であるアッラーの完全なる公正さによって実現される。

そしてイスラームの宣教が真の意味で到達し、その健全な理性を行使していた者は、すでに明証が示された者であり、至高のアッラーの許において言い訳は許されない。

最後に重要な問いについて考察する。

恐らく人々はこのように尋ねるだろう。どうしてアッラーはある者は、神を信仰するように創造され、神の命令に服従し、現世での試験に成功するために邁進する。ではなぜアッラーは私を自由にさせてくれないのか？

答：まずはっきりさせておきたい点は、イスラームにおいて崇高かつ至高のアッラーは、すべてを創造した創造主である、ということである。かれは被造物を含む宇宙すべてを創造し、天地、大地、山々、大海、河川、木々といった被造物を含む宇宙全体が、私たち人間の分からないやり方で創造主であるアッラーに仕え、その栄光を賛美しているのである。たとえば、それぞれ原子の核の周りには、電子が周回しており、原子はそれぞれその形状を異にしており、それぞれがそれぞれの仕方で創造主アッラーを賛美しかれに仕えているのである。それはムスリムがカアバ聖殿（唯一の神アッラーに礼拝を捧げる最初に建立されたマスジド）をアッラーの栄光を賛美しながら周回、その徳に感謝する姿に近似している。

イスラームはすでにアッラーこそが、唯一全能の創造主であり、人間がすでに人類の祖であるアダムの腰の一滴の雫であった日から（近年新たに発見された聖クルアーンの記述と一致する、すべての人間はアダムの腰の一滴だった、という科学的発見については後述する）、至高のアッラーは特定の方法で人間に対して、アッラーへの信仰心とそれに何物をも配さない天性がすでに宿った形で、創造される方が良かったか（この場合、試験の場もないので、その結果としての楽園も火獄もない）、それともアッラーを信仰するか否か、その命令に従うか否か、という問いを選択できる自由を与えられた被造物として創造される方が良かったか（この場合は、試験の結果として楽園に入るか、火獄に入れられるか、が決められる）、と尋ねている。

なぜなら、人間は何かしらの恩寵を熱望しているおり、楽園を望み、一生そこで過ごすことを渴望しているからである。それは儂い現世の美しさ、一

時的な美に惑わされることなく、自らの創造主を信仰し、その命令に従ったか否か、にかかっているのである。

もしかしたら人間はこのような問いについては一切考えたりしないのかも知れない。それも無理のないことかも知れない。なぜなら人間はインサーン（アラビア語で人間の意）と呼ばれ、時が過ぎるにつれて物忘れが（ニスヤーン：インサーンと同じ語源からなる語）激しくなるからである。人間は忘れる生き物である。そして遠い過去のことなどすぐに忘れてしまう。特に、至高のアッラーの英知とその意志によって、人間は忘れる生き物である。（人間が物事を忘れるのは、アッラーの英知である。）しかし、至高のアッラーは最後の預言者ムハンマドﷺを通して、アッラーへの信仰心と承認を求める。

人間は自身に以下の質問を再度繰り返すだろう。

もし新たに試験があるとしたら、特定の方法で神を賛美し崇拝するという本性が備わっており、試験もなく、結果として永遠の楽園も火獄もないとするか、それともアッラーによって自由意志が備えられ、現世という試験の結果如何で、その報いとして永遠の楽園が与えられる方を選ぶであろうか？

この質問は現世の生活に疲れていたり、急を要するときではなく、落ち着いているときに考えてほしい。この質問への回答に公正を期すためである。

そして人間はこの問いに対する自身の回答を見出すことになるだろう。それは楽園に入るという勝利への希望、そして永遠の住まいへの渴望であり、試験は決して成功、合格しえないようなものではなく、すべての人間に適した試験である。祝福された至高のアッラーは私たちにその能力以上のことを課されはしない。

そして人間は崇高かつ至高のアッラーが聖クルアーンによって、預言者ムハンマドﷺの舌を通して知らされたことが真であることを理解するであろう。

もし人間が自己に、人間とは異なる姿、形をした被造物で自由意志を有さず、特定の方法、仕方でその生を全うするまで神を賛美、礼拝し続け、その後には報いとしての報奨としての楽園も、懲罰としての火獄もない方が良かったか、それとも人間の性質を継承し、自由意志を有し、至高のアッラーによって試されて、それに合格すれば永遠の楽園に住まうか、もし懲罰に値すれば火

獄に入れられるか、そのどちらが良かったか問うならば、恐らく人間の性質を受け継ぎ、自由意志を有し、試験を受けることを選択するだろう。

これまで示してきたものに向かって進む者は、イスラームの宣教によって齎された明証性、唯一の創造主アッラー、その神聖性への信仰心、そして清純な天性と、純粋な精神が心待ちにし、思索的健全な理性が受け入れるものと合致するだろう。

●天使という被造物への信仰

至高のアッラーは天使を創造され、アッラーの命令に服従、実行し、仕えるような天性を付与された。したがって天使はアッラーに対して反抗することもない。アッラーが自由意志を付与されなかったからである。これらの天使は神の啓示を伝える役割を担っている。したがって、天使は創造主アッラーの教え、命令、禁止事項、などをアッラーが選ばれた特定の人間に伝える役割を担い、私たちはかれらから神の教えを知ることができるのである。

●すべての啓典への信仰

聖クルアーンは、神の啓示を人類に伝える役割を担う天使がだれであるかを明らかにしている（大天使ジブリール（かれに平安がありますように）。またこの啓典には現世を真っ直ぐに生きるための清純な信条、純粋なイスラームへの招待、静寂な崇拝行為、そして力強い法と教え、健全なる導きが記されており、これらを実行することによってすべての問題が、最善のやり方で解決される。さらには、これらのやり方は近代科学によって新たに発見された内容を多く含んでおり、聖クルアーンが1400年前に啓示されたことを考えると、これはまさに驚くべき事実である。

●すべての預言者と使徒への信仰かれらこそ崇高かつ至高のアッラーが被造物の中から、イスラームの宣教、その教え、そして神の存在、その創造性、それを信仰し、その唯一の神性、そして神自身の命令とその教えを実践するという方法によって宗教儀礼を行うことを私たち人間に教えるために選ばれた者たちである。

そしてすべては最後の預言者ムハンマドﷺに収斂される。かれこそはイスラームの預言者であり、イスラームの宣教、メッセージにおいて信頼のおける

真の正直者である。そしてかれこそは預言者性の証明（明証性）、啓典（メッセージ）の典拠を体現する者である。

以下にその例を示す。

1 預言者ムハンマドﷺが齎した清廉な信仰箇条と純粹な祈願。それは人間の清純な天性、人間の本性、健全な理性が受け入れるものである。

2 称賛すべきかれの礼節と高貴な性質。かれは理性的で、良い言葉でもって話し、常に美しく、道徳、外見においてその性質は完全であり、高貴なアラブ民族の出自をもっていた。

これこそは至高のアッラーがかれを預言者として選択された理由である。

3 預言者ムハンマドﷺの清貧な暮らしと、現世の華やかな生活に見向きもせず、唯一の創造主アッラーへの専心、そして善き生き方、清き品性、常にアッラーを想い、唱念を欠かさない姿。

4 彼の人々に対する接し方、慈悲、親切心、すべての被造物に対するやさしさ

5 アッラーが彼の祈願に対して応えられたこと。これこそは預言者であることの証明である。

6 至高のアッラーが預言者ムハンマドﷺに普通の人間ではあり得ないような奇跡と出来事を起こさせ、それによって人々は彼がアッラーから認められた預言者であることを知る。そのなかでも最も大きな奇跡は諸啓典の最後を締めくくるに相応しい聖クルアーンである。それはアッラーによって保持され、光にみちている。そして、すべての時代、場所において、その修辞法と発音、文字列、その意味、またその意義や影響性についてアラブ人を含む全人類に、聖クルアーンのような高次元のものを一章でも用意してみろ、と至高のアッラーが要求してみても、誰もそれを行うことはできなかった。そして聖クルアーンには1400年もの時を超えた科学的真理が内包されている。そしてそれらの真理、妥当性は近代科学によってはじめて発見され、聖クルアーンがアッラーの啓示によるものであり、ムハンマドﷺが最後の預言者であり、アッラーの使徒であることが確認されたのである。

7 啓典を広め、信仰を述べ伝えることにおける無謬性。預言者ムハンマド ﷺ は、彼に啓示が伝えられた40歳のときから、彼が63歳で崩御されるまでの23年間という短期間のうちに、彼を憎みその命を狙う者たちが大勢いたにも関わらず、当時のアラビア半島に蔓延していた多神崇拝を根こそぎにし、唯一の神であるアッラーへの信仰を人々の心に植え付け、人々の信仰心を強固にし、アラビア半島の腐敗したすべての慣習を取り除いたのである。これは彼が預言者であることの証明である。

ここで次のような疑問が思い浮かぶかもしれない。預言者や使徒を遣わさなくても、すでに人々のあいだで周知の事実となった勸善懲悪によって至高のアッラーを崇拝することは可能ではないのか？

答：人生のすべてはアッラーのためであり、賜物や功德は至高のアッラーからのものであり、求めなければならないのは、アッラーが求めるものである。これは、諸預言者や諸使徒によって明らかにされた。また人々はそれぞれ異なった環境や状況に生きているのであり、もし人々の信仰心が同じでなければ、善悪の判断も同じものになり得るだろうか？したがって、諸預言者と諸使徒を信仰することこそ、至高のアッラーとその唯一性への包括的な信仰心なのである。至高のアッラーの功德と恩寵、またかれが人間に求めたやり方でかれを崇拝すること、それはアッラーからの命令と禁止事項によって行われる。唯一の神アッラーに対する信仰心、崇拝行為はアッラーが望まれた特定の方法によって行われ、その方法はかれの英知、意図に基づいたものである。

●最後の審判の日への信仰

審判の日とは、人間が死後に、現世での行為、行い、信仰を至高のアッラーから問いただされる日である。たとえ微小でも善行を行った者は、その報奨を見、微小でも悪行を行なった者は清算されるのである。もし来世、審判の日がなかったならば、人間が現世において単なる利害関係を超えて、高貴な倫理観と称えられるべき品性を身につける論理的理由を見出すことができなくなる。つまり人間は現世の利害関係と相反するとしても、アッラーからの報奨を求めること、また来世での懲罰への恐怖心によって、倫理的品性を保ちうるのである。

また来世での懲罰が存在しないとしたら、たとえば何千人もの人間を死に追いやった者に、どのようにしたら、それ相応の懲罰を与えることができるだろうか？

現世で最大限与えうる懲罰が死刑（同害報復）であるかぎり、現世のみで公正、正義が貫徹されることはあり得ず、現世における被害者は被害者として残りの人生を全うすることとなる。

あるいは、ある人物が他の人物の命を救うために自身の命を犠牲にしたとしよう。この崇高な行為に対する報い、報奨は存在せず、彼の死はいわゆる無駄死だったのだろうか？それともこの崇高な行為、高貴な行いに対して払われる報いが存在するのだろうか？果たしてそのどちらがより公正で私たちの理性に適っているだろうか。そして審判の日こそは至高のアッラーが私たちのために用意されたものであり、私たちの善き行いが報われる日なのである。

疑いなく、私たちの理性が求める論理的な回答は、至高のアッラーのために努力した人間には、然るべき報い、報奨があるというものだろう。

ここまで説明してきたことによって、現世での行いについて清算する日が必要であることが明確になった。これこそは至高のアッラーの英知であり、私たちが審判の日を信仰すべき明証性である。

●定命（カダル）への信仰

現世で私たちに起こる善悪（富、貧困、健康、病気などの面から）のすべては、至高のアッラー（完全なる英知の持ち主で、自らの意志によって裁かれる御方）が予め決定されたこと（定命）である。したがって私たちはアッラーが決められたことに対して、たとえそれが不完全、不当に感じられたとしても、アッラーが与えられた定命に満足すべきなのである。

以上、イスラームの信仰について概観したが、清浄なる天性、純粹なる自我、賢明なる理性が、そして人間の人生に光を与え、現世においても、来世においても人間を幸福にする清らかなるイスラームの信条が明らかになったことと思う。

自己への教育とその清め

至高のアッラーは仰せられる。

- 「一方、信仰者としてかれの御許にやって来る者で、善行を確かになした者、それらの者、かれらには最高の諸位階がある。永住の樂園で、その下には河川が流れ、かれらはそこに永遠に。そしてそれは（己を）清めた者の報いである。」（ター・ハー：75, 76）

- 「それ（魂・己）を清めた者は確かに成功し、」（太陽：9）

イスラームは罪、恥辱、悪徳から自身の品性、自己の清浄性を保持し、自己を清め、さらに善行を行う段階へと高めることを求める。これは永遠なる来世における成功への道である。そして自己を清める、とは信仰心の欠如、または創造主、諸預言者、諸使徒、諸聖典、審判の日を捏造すること、さらには偶像崇拜や信仰上の悪徳、また忌むべき性質や品性、行為によってなされるのではなく、唯一の創造主、そしてその神性、諸預言者、諸使徒、諸聖典、審判の日を信仰すること、さらには信仰することだけでなく、アッラーへの服従と崇拜行為を現世において実践すること、そして高貴な性質、品性を維持することによって齎されるのである。



人間の尊厳とその生活の保持

イスラームは強固な法によって人間に榮譽を与え、その生活を保持する。至高のアッラーは仰せられる。

- 「そしてわれらは確かにアードムの子らに榮譽を与え、」 (夜行：70)

至高のアッラーは、自らが人間に与えた恩恵（健康など）を保持することを命じ、理性という恩恵によって与えられた尊厳を保持するよう求める。したがって至高のアッラーは、理性の喪失の原因となるあらゆるものを禁じられ、反対に理性にとって有益であり、益を齎す善き行いを推奨された。

1. イスラームは自殺を禁じ、このような悪しき犯罪の不履行を強調している。至高のアッラーは仰せられる。

- 「それ即ち、人の命のゆえにでも、あるいは地上での害悪のせいでもなく、人一人を殺した者は、人々すべてを殺したようなものであり、人一人を生かした者は人々すべてを生かしたようなものであると。」 (食卓：32)

そして現世と来世における懲罰の重さを明確にされる。

2. イスラームは、自殺を禁じ、自らを破滅に導くことを禁止している。

- 「また、おまえたち自身を殺してはならない。まことにアッラーはおまえたちに慈悲深い御方。」 (女性：29)

- 「そして自分たちの手をもって破滅に投じてはならない。」 (雌牛：195)



連帯と平和への誘い

イスラームという語の語源は、サラーム（平安）という語と同じくサリマという語根からの派生語であり、安全、信託、安寧を意味する。

イスラームは平和とその重要さ、また実際に平和が実現されることを高く評価し、過激なテロ行為を認めず、協約、協定を固く守るよう説く。至高のアッラーは仰せられる。

－「またもし多神教徒の一人がおまえに庇護を求めたなら、かれがアッラーの御言葉を聞くまではかれを庇護し、それからその者を安全な場所に送り届けよ。それは、かれらが知らない民だからである。」（悔悟：6）

－「アッラーはおまえたちに、おまえたちと宗教において戦うことなく、おまえたちをおまえたちの家から追い出さなかった者たちについて、おまえたちがかれらに親切にし、かれらに対して公正に振る舞うことを禁じ給わない。まことに、アッラーは公正な者たちを愛し給う。」（試問される女：8）

－「人々よ、われらはおまえたちを男性と女性から創り、おまえたちを種族や部族となした。おまえたちが互いに知り合うためである。まことに、アッラーの御許でおまえたちのうち最も高貴な者は最も恐れ身を守る者である。まことに、アッラーはよく知り通暁し給うお方。」（部屋：13）

イスラームにおいて、国家、共同体の間に差異は存在しない。人間はアッラーによって創造され、アッラーの許ではすべての人間が平等に扱われる。個人間に優劣は存在せず、存在しても、アッラーへの信仰心と畏怖の念、そして大地（アッラーからの信託物）を豊かに保ち、腐敗を防ぐことなど、現世での善行によってのみ存在する。

そしてイスラームは、人間を正しき道に導き、平和を成就させる法則が存在する。その法則とは、唯一神への信仰、異なるさまざまな言語、民族という枠組みを超えて、善悪の基準を含む一つの教え、命令、崇拜行為の許で人間を一つに帰すことである。イスラームは善をなし、悪を禁ずることによって平和を齎す。現世の生活は試験の場であり、その後を訪れる審判の日によって、

私たちの現世での行いが公正に裁かれることを明らかにしている。誰しも不当に殺人を犯したり、大地を腐敗させ、その他の禁止事項、不正を行えば、その能力に応じて神の許で裁かれることになる。また反対に、禁止事項、不正を行わず、不当な殺人を犯すことなく、大地を守り、社会に善と正義、徳を広めた者は、その善き行いによって、人類が正しき道へと進み、平安が現実のものになるならば、至高のアッラーから報奨が与えられ、アッラーのご満悦を得て、永遠の楽園に住まうのである。

イスラームは自身を生かした者は、全人類を生かした同然だと説く。

- 「それ即ち、人の命のゆえにでも、あるいは地上での害悪のせいでもなく、人一人を殺した者は、人々すべてを殺したようなものであり、人一人を生かした者は人々すべてを生かしたようなものであると。」（食卓：32）



女性の尊厳

イスラームは、女性の社会での役割を明確にし、女性の活躍を保障している。そして、女性に榮譽を与え、社会のなかで良質な人間関係を築き、この世に生を受けてから、少女時代を経て、婚約、結婚を経て、母親として子供の育児を含む、人生のすべてのプロセスにおいて、清き生き方を命ずる。このことは聖クルアーン、真正ハディースを通して、繰り返し強調される。

少女として

- 「女兒を産んだ者で、女兒を生き埋めすることなく、疎んじることなく、男児を女兒に優先しない者は、アッラーが彼女を樂園に入れるだろう。」
(イマーム・アフマドの伝承より)

- 「二人、もしくは三人の娘、姉妹があり、彼女たちと良好な関係を保ち、アッラーを畏れる者は樂園に入るであろう。」 (ティルミズィーの伝承より)

「三人の娘があり、彼女らを守り、慈しみ、その責任を負う者は必ずや樂園に入るであろう。」

「アッラーの使徒よ、もし娘が二人であればどうでしょうか？」

「二人でもだ。」

「もし娘が一人ならばどうでしょうか？」アッラーの使徒は答えられた。

「一人でもだ。」 (ティルミズィーの伝承より)

妻として

- 「そして彼女らとは良識に沿って暮らせ。そしてたとえおまえたちが彼女らを嫌ったとしても、おまえたちは何かを嫌うかもしれないが、アッラーはそこに多くの良いことをなし給うであろう。」 (女性：19)

- 「女性たちに最大の注意を払いなさい。」 (ブハーリーの伝承より)

病床にあり、息を引き取られる最後に預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「礼拝を、礼拝を。そしてあなたの右手が所有する（つまり妻たち）ものに対してアッラーを畏れなさい。」（アブー・ダーウードの伝承より）

ここに預言者ムハンマドﷺの最後の思いが託されて言えるだろう。それは女性に対する

る善き接し方であり、彼女たちのすべての権利を守り、彼女たちに榮譽を与えることである。

母親として

- 「そしておまえの主は定め給うた、かれのほかには仕えてはならない、と。そして、両親には心尽くしを。もしかれらの片方か両方がおまえの許で高齢に達したとしても、かれらには「ちえ（忌々しい）」と言ってはならず、かれらに声を荒げてはならない。むしろ、かれらには優しい言い回しで話せ。そして、かれらには慈愛から謙譲の翼を下げ、言え、「わが主よ、ふたりに御慈悲を垂れ給え、かれらが幼い私を育ててくれましたように」。（夜行：23, 24）

- 「また、われらは人間に両親について訓戒した。かれ（人間）の母は衰弱の上に衰弱を重ねてかれを抱え（孕み）、かれの離乳は二年のうちである。われに感謝せよ、そして、おまえの両親にも。われの許にこそ行き着く先はある。」（ルクマーン：14）ある男が預言者ムハンマドﷺの許にやって来て、言った。

- 「アッラーの預言者よ、私が最も手にかけるべき人物とは誰でしょうか？」預言者は答えて言われた。「あなたの母親です。」男は再び言った。「彼女の次は誰でしょうか？」預言者は答えて言われた。「あなたの母親です。」男は再び言った。「彼女の次は誰でしょうか？」

「あなたの父親です。」（ブハーリーの伝承より）

ある男がアッラーの使徒の許へ来て言った。アッラーの預言者よ、たとえ両親が嘆き悲しもうとも、共にジハードに参戦したく参りました。」預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「戻ってかれらの側にいてやりなさい。かれらを嘆かしたように、かれらを笑わしてやりなさい。」（アハマドの伝承より）

この男に対して、預言者の許で不信心者との闘いに加わるのではなく、かれを必要としている両親の側にいてやりなさい、と命令したのは預言者ムハンマドﷺの慈悲ゆえである。このハディースは前述のハディースと同様に、両親、特に母親の存在の大きさを物語っている。

－ またある男が預言者ムハンマドﷺの許に来て言った。

「アッラーの預言者よ、私も戦争に参加したく、助言を乞いに参りました。」すると預言者ムハンマドﷺは言われた。

「あなたに母親はいるか？彼女の面倒をみてやりなさい。樂園は彼女の足元にある。」

（アハマドの伝承より）

預言者ムハンマドﷺが、その母親の墓地を訪れたとき（彼の母親アーミナは、彼が6歳のときに他界し、彼の父親もかれがまだ母親のお腹の中いるときに亡くなっている。また彼の両親が亡くなったあと、彼を教育したのも彼の祖父にあたるアブドゥルムッタリブであった）、彼女を亡くした悲しみのために泣き始め、それにつられて彼の教友たちも泣き始めた。これは預言者ムハンマドﷺの母親への慈愛、慈悲の大きさを示しており、いかに彼にとって母親の存在が大きかったかを物語っている。

ここでは詳細を語らないが、この他にも多くの聖クルアーン、真正ハディースにおいて女性の存在の大きさ、価値、そしてイスラームにおける位階の高さについて言及がされている。

そしてイスラームは私たちに、女性に対していかなるときも最大限の敬意をもって接することを求めているのである。



子供たちへの教育とかれらへの慈悲と慈愛

イスラームは子供たちの教育を非常に重要視し、高貴な品性、道徳によって子供たちを育てることを勧めている。なぜなら、かれらこそが未来の繁栄のための種とも言えるからである。

イブン・アッバース（彼にアッラーのご満悦あれ）は言われた。

- 「ある日、私が預言者の背中の上にいると、預言者は私に言いました。」

「少年よ、いくつか良いことを教えてあげよう。もしアッラーの教えを守るなら、アッラーがあなたを守り、いつもあなたの側にいて下さるでしょう。もし誰かに教えを乞うなら、アッラーにのみ教えを乞いなさい。助けが必要ななら、アッラーにのみ助けを求めなさい。知りなさい、何者も唯一アッラーを除いてあなたを益することはできず、何者もアッラーを除いてあなたを害することはできない。ペンはずでに放たれ、インクは乾いている。」
(ティルミズイーの伝承より)

- 「少年に向かって、ほら来なさい、これを与えるよ、と言ってそれを与えないならば、その者は嘘つきである。」（アハマドの伝承より）アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言われた。

- 「以前、私にはアブー・オマイルという兄弟がいました。アッラーの使徒が私たちの許に来て尋ねました。「アブー・オマイルよ、ヌガイルは何をやったのだ？（ヌガイルは小さな鳥のこと）」それはアッラーの使徒の人当たりの良さ、優しい性向の表れでした。

(ブハーリーの伝承より)

アブー・フライラは言われた。

「ウヤイナ・ブン・ハサンはアッラーの使徒の許でハサンとフセイン（アッラーの使徒ムハンマドの孫）を受け入れているのを見て、「アッラーの使徒よ、かれら二人を受け入れるのですか？」と訊くと、「もし私に十人い

たならば、かれらのうち一人も受け入れなかつたらう。」すると、アッラーの使徒は言われた。

「慈しまない者は慈しまれることもない」（アブー・ヤアラーの伝承より）預言者ムハンマドﷺは言われた。

「子供たちを慈しまない者は、私たちと同類ではない。」（ティルミズィーの伝承より）この他にも多くのハディースで、子供についての言及がある。



若者たちへの関心

イスラームは次世代の若者たちに大きな関心を寄せる。それはかれらの誠実さが社会の誠実さにつながり、ひいてはその国家、国民の覚醒、発展につながるからである。かれら若者たちこそ明日の社会の重責を担い、将来の父親となる存在である。かれらは言わば、共同体の根幹を成す存在なのである。イスラームは若者たちの教育を重視し、聖クルアーン（洞窟章）や真正ハディース（洞窟に入り、大岩が崩れ落ち、洞窟に閉じ込められてしまった三人の物語）の物語に例示されるような、模範的かつ善良な責任感ある若者たちを養育する。



イスラームと被造物（動物、鳥、木々、植物）への慈悲と慈愛

イスラームは動物、鳥、植物といった被造物への慈悲と慈愛の精神、それらを不当に扱うことのないよう勧めている。

1－預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「ある犬が重度の渇きのために泥水を飲んでいて、それを目にした男が、履いていたサンダルにいくらかの水を注いで、犬に飲ませてやった。アッラーはこのことで、その男に感謝し、かれを樂園に入れられる。」（ブハーリーの伝承より）

2－人々は預言者ムハンマドﷺに尋ねた。

「アッラーの使徒よ、動物に対しての善行も私たちの報奨となるのでしょうか？」預言者ムハンマドﷺは言われた。

「はい、その通りです。動物に対しても報奨があります。」（ブハーリーの伝承より）

3－預言者ムハンマドﷺは不必要に動物の上に乗ることを禁じられた。

－「（動物に）負担をかけないように乗り、（動物の）健康を祈りなさい。道中または市場などで雑談のための椅子として使用してはならない。乗り物は、それに乗る者よりも重要で、乗り物を丁重に扱えば、祝福された至高のアッラーから多くの祝福があるだろう。」（アハマドの伝承より）

4－預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「これらの獣に対してアッラーを畏れなさい。乗るときは慎重に乗り、食ぶるときは丁重に扱いなさい。」（アブー・ダーウードの伝承より）

道中を共にする動物の健康に留意し、負傷しないよう維持し、その動物の最善の権利を願う。そうすれば、健康が保たれ、支障もなく乗り物として活用でき、食ぶるときは、健康で肉付きのよい良質な肉を得られるのである。

5－預言者ムハンマドﷺは動物を不当に扱うことをたしなめられ、もし動物を不当に扱えば至高のアッラーの怒りの原因になり、来世での懲罰に値することを示された。

－「ある女性は、彼女が猫を縄で虐待したという理由で火獄に入れられた。彼女はその猫に食事を与えることもなく、自由に草を食む自由も与えなかったからである。」（ブハーリーの伝承より）

6－預言者ムハンマドﷺは言われた。

ジャーベルが伝えるところによると、預言者ムハンマドﷺがロバの側を通り、その顔に焼け跡があるのを目にした。すると預言者ムハンマドﷺは、

－「焼印をした者はアッラーに呪われてしまえ。」と言われた。（イブン・ハッバーンの伝承より）

7－預言者ムハンマドﷺは、スズメなどを含む小鳥、鳥類を不当に殺害、扱うことをたしなめられた。

－「特別な理由もなく小鳥を殺せば、（その小鳥は）審判の日に、主よ、ある者が私を不当に殺害したのです、と泣きながら嘆願するであろう。」

（ナサーイーの伝承より）

8－（木々と植物に関して）至高のアッラーは言われる。

「また、その秩序が正された後に地上で悪をなしてはならない。そして、かれに恐れと希望を込めて祈れ。まことにアッラーの慈悲は善を尽くす者たちに近い。」（高壁：56）

また預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「ナツメヤシの枝、その他の木々を切ってはならない。また建物も壊してはならない。」（ラヒーク・マフトゥームより）

もしこれらの事を行うのであれば、それは必要に迫られた例外的な場合のみか、もしくは正当な理由による公共利益に適う場合のみである。



イスラームと学問への招待

イスラームは知識、学問の探求を推奨し、すべての生活分野において人的資源の覚醒を目指す。預言者ムハンマドﷺに下った最初の啓示も次のようなものである。

- 「誦め、おまえの主の御名において」 (凝血：1)

これは、もちろん実践的命命であり、個人、共同体に対してのものである。

そして周知の通り、どのような学問分野においても読書こそが学問、知識の源泉である。それだけではなく、イスラームでは以下の節にもあるように、更なる知識の増大も推奨されている。

- 「そして言え、「わが主よ、私に知識を増し給え。」
(ター・ハー：114)

そして聖クルアーンと預言者の伝承（ハディース）によって、驚くべき科学的真実が伝えられている。それは1400年前の当時のアラビア半島においては誰も知りえない類のものであり、その後、近代科学のテクノロジーの進歩によって、その正しさ、信頼性が確認されたのである。ここでは、それらを順に見ていくことにしよう。

例1

至高のアッラーは仰せられる。

「また、おまえの主がアードムの子孫から、かれらの腰からその子孫を取り出し、かれら自身の証人とならせ給うた時のこと。」 (高壁：172)

「アッラーは人類の祖アードム（かれに平安あれ）から協定を結ばれ、そしてその腰からすべての子孫を取り出された。」 (ナサーイーの伝承より)

聖クルアーンと真正ハディースで明らかにされたように、アードム（人類の始祖であり、彼こそがアッラーが創造した最初の人間である）の子孫はすべて、かつてその腰部にあって瞬間的に創造されたのであった。そして、近代

科学は染色体という小体の発見に成功し、さらに胎児学において、その染色体における遺伝的役割を発見した。そしてこの分野の研究者たちによって、人間の創造は、父親と母親の精液によって事前にかなり特定できることが証明された。そして、これは両親や遠い祖先の遺伝コードにまで遡ることができ、遺伝コードは最終的には人類の祖アダムに辿り着くのである。またこの遺伝コードは高度な正確さでプログラミングされており、大量の細胞の中にある細胞核の内部で螺旋状に繋がっていることが確認された。すなわち、これが意味するところは、アダムの創造の時点で、すべての個々人の存在はすでに遺伝コードによってプログラムされていたという驚愕の事実である。そしてこの科学的発見は、聖クルアーンと真正ハディースの中でも言及されていることが確認されたのである。

例2

至高のアッラーは言われる。

- 「人間は見逃されて放っておかれると考えるのか。かれ（人間）は射出された精液の一滴ではなかったか。」（復活：36，37）

人間は見逃されて放っておかれると考えるのか、とは、人間が死後も現世において至高のアッラーの教えを実践したか否か問われることなく無為に放っておかれるのか、あるいは、至高のアッラーの教えに対する服従、反抗に対する判定、裁定（報奨も懲罰）もなく放っておかれるのか、という意味である。

そのようなことは断じてあり得ない。人間は現世で行ったことすべてについて問われ、判

決をうけ、裁かれるのである。現世で微塵の重さでも善行をなす者があれば、その報いと報奨を受け、微塵の重さでも悪行をなす者があれば、その裁きを受けるのである。

「一滴」とは、受精の原因となる最低限の量、という意味である。

「射出された精液」とは胎児の形成、受精の要因となる一滴、という意味である。

人間は始めに一滴の精液によって形成され、その中に含まれる多量の精子によって受精する。

これは、聖クルアーンの一節で言及されている部分と近代科学の発見が一致することを意味している。すなわち、胚児の形成は一滴（聖クルアーンにおいても一滴というアラビア語は、複数形ではなく単数形で書かれている）の精液に由来し、それは多量の精子を含み、精子が着床すると、その何千という受精卵から妊娠するための単一の受精卵が選択されるのである。

そして近代科学の発見によって到達した結果と聖クルアーンの記事が同一であることが

明らかにされた。その記述は驚くほど正確で、その表現はとても繊細である。例3

「それから、かれは卑しい水の髓からその後裔をなし給い、」
(跪拝：8)

水の髓とは、妊娠の原因となる精液が分解（選択され摘出されたもの）されたものである。それは前述の聖クルアーンの記事の通り、一滴の精液である。

つまり、胚児の形成は、一滴の水の髓からであった。それこそが妊娠の原因となるものである。

そして近代科学の発展によって、胚児の形成の要因となる精液の性質（男性の精子は動物の精子に類似している）が解明された。それは、聖クルアーンのスラーラという一語を用いての記事とも完全に一致するものである。

スラーラはサッラからの派生語であり、それは精液の名称である。それは次のいくつかの意味を持つ。

- ①胎児の形成のための一滴が含まれる流体のもの。
- ②この精滴が含まれる流体のものは長い形状をした魚の形に類似している。
- ③この精滴が含まれる流体のものは次の世代へと受け継がれ、飛び出していく。

近代科学の発見

胚児がそれによって形成される精液（着床した受精卵）は、いわば微小の精滴が含まれる液であり、その精滴の形状は長い魚の形に類似している。そしてこの精滴は、他の大量の精子に交じって着床のために競い合うようにして卵管へと飛び出していくことになる。そしてこれらは聖クルアーンが指摘するものと完全に一致する。そして聖クルアーンはこのような驚くべき科学的事実を知っている者はいなかった1400年前に預言者ムハンマド ﷺ に啓示され、その信憑性が証明されることとなった。

この科学的事実の詳細については以下の書物を参考にされたい。

〈イスラームと近代科学の発見によって明らかにされた預言者ムハンマド ﷺ のメッセージと預言者性の証明と証言（日本語訳）〉 アラビア語文献による典拠

1- الإسلام ومكتشفات العلم الحديث كإحدى شواهد ودلائل نبوة رسالة محمد صلى الله عليه وسلم،

للأستاذ/ محمد السيد محمد

ムハンマド・アルサイエド著『イスラームと現代科学の発見預言者ムハンマド ﷺ の預言とその教え』

関心のある方は以下のリンクにアクセスすると、日本語で読むことが出来る。

https://www.islamic-invitation.com/book_details.php?bID=1809&fbclid=IwAR2wkzIsS8n0hkNe-3AO6w26JaTPFUQrFpI74h-sKwWkH8CHZEgCNIFhmg

2- من آيات الإعجاز العلمي (السماء، الأرض، الحيوانات، النبات) في القرآن، للدكتور/ زغلول النجار

ザグルール・エル・ナッガール博士『クルアーンにおける科学に関する奇跡の印から（天・地・動植物）』

3- الأجزاء ٢،٢٠١ الإعجاز العلمي في السنة النبوية، للدكتور زغلول النجار

ザグルール・エル・ナッガール博士『預言者のスンナ(慣行)における科学に関する奇跡について) 1・2・3 部

٤- موسوعة الإسلام والعلم الحديث، الإعجاز العلمي في القرآن الكريم، للدكتور/ زغلول النجار
ザグルール・エル・ナッガール博士『百科イスラームと現代科学、クルアーンにおける科学的奇跡』

٥- علم الأجنة في ضوء القرآن والسنة، بهيئة الإعجاز العلمي للقرآن والسنة بمكة المكرمة
クルアーンとスンナの科学的奇跡委員会(メッカ)『発生学の書・クルアーンとスンナの光の中で』

٦- إعجاز القرآن في ما تخفيه الأرحام، للأستاذ/ كريم نجيب الأغر
カリーム・ナジーブルアグル教授『子宮に隠されていたクルアーンの奇跡』

(これらの学者たちの信仰告白またはイスラームへの言及はインターネット動画を通して見ることができる。

<http://www.islam-guide.com/jp/ch1-1-h.htm>)



イスラーム共同体「誦め」

イスラームは読誦と知識の探求を命ずる。それは、人間の無知と退廃という暗黒から学問による英知への解放であり、道のりである。人間生活のすべての分野において覚醒、発展へと導く。

そして前述のように、至高のアッラーから預言者ムハンマド^ﷺへの最初の啓示は「誦め」という一言であった。その後、荒廃と無知から、イスラーム共同体による覚醒が興り、その共同体は正に「誦め」を体現する共同体になったのである。そして読誦者と知を求める者たちによって構成された共同体は、世界に英知と知識を与えるようになったのである。

初期のムスリムたちはクルアーンの読誦と研鑽に励み、崇高かつ至高のアッラーの最初の啓示である「誦め」を見事に実践していた。そしてアッラーの啓示と真正ハディースに伝わる科学的真実の探求、調査のための努力は継続された。そのような努力への献身的態度はどの科学分野においても変わらなかったが、特に天文学の分野において顕著であり、そのことは天文学の著しい発展につながる事となった。



イスラームとその他の諸宗教

他の宗教を信仰する者たちを、人間の本性に則った真実の言葉のうちに誘い出すことは常にイスラームの望みであり目的であった。真実の言葉とは、崇高かつ至高の創造主アッラーを信仰することであり、それはとりもなおさずアッラーが唯一の存在であり、アッラーに並び立つ者は何者もあり得ないことを信仰することである。この真実の言葉こそイスラームによって齎された健全で理性的で論理的な対話、また良識と広範な知識によって、人々に広められるべきものである。

そして至高のアッラーは言われた。

- 「言え。啓典の民よ、われらとおまえのたちの間の等しい言葉に來れ。すなわち、われらはアッラーのほかには仕えず、かれになにもものをも並び置かず、われらのある者がある者をアッラーをさしおいて主とすることはないと。」

(イムラーン家：64)

- 「おまえの主の道へと英知と良い訓告をもって呼び招け。そして、かれらとはより良いものをもって議論せよ。」 (蜜蜂：125)

- 「宗教に強制はない。」 (雌牛：256)

- 「おまえたちにはおまえたちの宗教があり、私には私の宗教がある」。
(不信仰者たち：6)



非ムスリムに対する善き接し方

イスラームは赦し（寛容）の宗教であり、それは非ムスリム（ムスリム以外）に対しても同様である。基本的なイスラームの教えは、寛大で公正に、ムスリム非ムスリムに関係なくすべての人々と接することである。

－「アッラーはおまえたちに、おまえたちと宗教において戦うことなく、おまえたちをおまえたちの家から追い出さなかった者たちについて、おまえたちがかれらに親切にし、かれらに対して公正に振る舞うことを禁じ給わない。まことに、アッラーは公正な者たちを愛し給う。」（試問される女：8）



イスラームにおける兄弟愛

イスラームは私たちに、お互いの団結、連帯、協調、親愛、慈悲を説く。

- 「そしてアッラーの絆に皆でしっかりと縋り、分裂してはならない。そしておまえたちへのアッラーの恩寵を思い起こせ。その時、おまえたちは敵であったが、かれがおまえたちの心を結び付け給い、おまえたちはかれの恩寵によって兄弟にかわった。」（イムラーン家：103）

- 「ムスリムはお互い兄弟である。」（ブハーリーの伝承より）

- 「信仰者たちはお互いを思いやり、慈悲、共感の念において一つの身体のようなものである。身体の一部の部位が痛めば、日夜を問わず、他の部位が全力で回復にあたる。」（ブハーリーの伝承より）

イスラーム以前のアラビア社会は、部族間の抗争、戦争が絶えず、特別な理由もなく、利権争いを繰り返していた。しかし預言者ムハンマドﷺが遣わされたあとは、タウヒード（唯一の創造主への信仰）の理念が説かれ、人々は次々にイスラームへと入信し、お互いがお互いを認め合い、愛し合い、助け合う一致団結した一つの集団となったのである。そしてイスラームによって、肌の色、血統、言語、階級を異にする世界中の人々が、お互いを兄弟として認めあい、一つにまとまることのできたのである。

ここからは二つの宗教儀礼（礼拝と巡礼）とその他の崇拝行為について、またお互いの違

いを乗り越えることによって生まれる徳とその影響力について見ていくことにしよう。



戦時における寛容さ

ムスリムによる戦争は、敵たちへの反撃、もしくはイスラームの宣教活動のための治安確保、あるいはイスラームの姿を歪曲し虚偽の教えを人々に広めようとする者たちに対してのもの、であることが常であった。

それにも関わらず、イスラームは戦争中でさえムスリムに対して、侵略、ねがえり、女、子供、障がい者、老人（非戦闘員）、投降者、武器を持たない者たちの殺害を禁じ、また一般住居の破壊、木々の伐採、都市の壊滅、地上でのあらゆる種類の腐敗を禁じている。

イスラームは慈悲と寛容の宗教であり、戦時においてさえ、私たちはイスラームの人間性、そして公正さ、正義を目の当たりにすることができる。

その一例は、預言者ムハンマドﷺがされたマッカ住民に対する恩赦に見ることができる。マッカ住民は、かつて預言者ムハンマドﷺとその他のムスリムをマッカから放逐し、ムスリムの財産を奪い、20年以上の長期にわたって抗争を繰り返し、預言者ムハンマドﷺの殺害を試み、イスラームに対する最大の敵対者だった者たちである。しかし、ムスリムが崇高かつ至高のアッラーに謙虚で、勝利者としてマディーナからマッカ入城を果たしたとき、ムスリムはマッカ住民を暴力者、反撃者としてではなく全面的に受け入れたのである。預言者ムハンマドﷺはマッカ住民に言われた。

「あなたたちには私があなたたちの原動力であることが分からないのか？」彼は言った。「今日、おまえたちには咎めはない。アッラーはおまえたちを赦し給う。かれは慈悲ある者たちのうちの最も慈悲ある御方。」
(ユースフ：92)

「行きなさい、そうすればあなたたちも自由の身だ。」（バイハキーによる伝承より）マッカ入城時（戦闘することなくムスリムが勝利者としてマッカに入城したとき）に預言者ムハンマドﷺは、ある者が「今日は虐殺の日だ」と言うのを聞いた。（つまり20年以上にわたり、ムスリムをマッカから追放

し戦争を繰り返してきた敵に対する復讐の日) それを聞いた預言者ムハンマドﷺは、その言葉を否定し次のように言われた。

「今日は慈悲の日だ」と (つまり戦争を繰り返してきた者を赦し容赦する日) (イブン・サイード・ナースによる伝記より)。

至高のアッラーは預言者ムハンマドﷺに真実を伝える。

- 「そしてわれらがおまえを遣わしたのは、諸世界への慈悲としてにほかならない。」 (預言者たち：107)

イスラームは非ムスリムの入信を妨げることはない。むしろかれらにイスラームの教えを説き、その教え通りに行動するよう求めるのである。そしてイスラームを宣教したあとは、

(宗教) 選択をかれらの自由にまかせ、審判の日のアッラーの裁きに身を委ねるのである。



戦争捕虜に対する接し方

イスラームは慈悲と公正の宗教である。イスラームでは戦争捕虜を不当に扱うこと、かれらへの虐待は禁止されており、かれらを正当に扱い、快く接すること、またより有益かつ福利のための手段として用いることが要求される。当時のムスリムのイマームは戦争捕虜とムスリムの捕虜の交換、一切の見返りなしの解放（もし捕虜の他のムスリムがいなければ）を行っている。

預言者ムハンマドﷺは、捕虜のスマーマ・ブン・アサールにこう言われた。

「スマーマよ、何か言いたいことはあるか？」スマーマは言った。

「私は善を求めます。あなたがもし私を殺すなら、あなたは全ての罪ある人間を殺すでしょう。もし財産を求めるなら、あなたは求めるだけの財宝を手に入れるでしょう。」すると預言者ムハンマドﷺは彼を次の日まで解放された。そして次の日に再びこう言われた。

「スマーマよ、何か言いたいことはあるか？」

「私がすでに述べたことです。もし私に厚情を賜るのなら、すべての善き者に厚情を賜るのでしょう。あなたがもし私を殺すなら、あなたは全ての罪ある人間を殺すでしょう。

もし財産を求めるなら、あなたは求めるだけの財宝を手に入れるでしょう。」すると預言者ムハンマドﷺは言われた。

「スマーマを解放しなさい。」

そしてスマーマはモスク近くのヤシの木まで行き、沐浴をし、モスクに入って信仰告白を行った。

「私はアッラーの他に神はないことを、そしてムハンマドﷺがアッラーの使徒であることを証言する。」（ムスリムの伝承より）

これは預言者ムハンマドﷺの捕虜への恩赦の最も代表的な例であり、これこそイスラームが慈悲で寛容な宗教であることの証である。

静寂な宗教儀礼、高貴な道徳、理知的人間関係、 力強き体系

イスラームは、人間の精神の穢れを落とし、あらゆる否定的な性質（階級性、横柄さ、人種差別など）から精神を清浄にする宗教儀礼を齎し、高貴で気高い性質（謙虚さ、感受性、他者への配慮、協調性）を説く。ここではこれらの宗教儀礼を見ていこう。

サラート（礼拝）：イスラームの礼拝において、私たちはムスリム間における平等性を見出すことができる。たとえば、それは、一国の首相が一般市民と、富者は貧者と、強き者は弱き者とそれぞれ一列に並び、イマーム（礼拝先導者）を前に、世界中のどこであっても皆が同じ方法で礼拝を捧げる姿に見てとれる。

また、ムスリムのこれらの礼拝中の跪拝（サジダ）の動作の中にも科学的効果が発見されている。それはサジダを行うときのアッラーへの尊崇、賛美を表すための額を地面につける動作が、人間の内部に存在する余分な電荷を地面に移動させ、余分な電荷が原因で引き起こされる害悪から人間を救う、という効果なのである。

ザカート（浄財）：ここに私たちは、イスラーム社会における社会的相互扶助の一つの例を見ることができる。ザカートは毎年、その社会の富者の収入から2.5パーセントが貧者、困窮者、社会的弱者に与えられる。ザカートによって社会に生きる人々は、共感と愛情の念が芽生えるのである。

と言うのも、ザカートは利益や収益に対してではなく、眠っている資本に対して年（ヒジュラ暦）に一度課される。したがってザカートは、（多くの場合）眠っている資本ではなく、利益や収益から支払われることになる。したがって結果的に、社会全体の資本の循環が加速し、ひいては雇用機会の増大、失業率の減少、経済活動の活性化などのさまざまなプロジェクトに対する富者の資本の投資を間接的に促進することになるのである。

サウム（齋戒）：これは、ムスリムが、日が昇り始めた時刻から日没の時刻までの時間帯に、毎年特定の一カ月間（ラマダン月）に飲食、性行為などを慎むことである。そして世界中のムスリムが時を同じくして、完全に同じ方法でこの崇拝行為を行うのである。

また預言者ムハンマドﷺの慣行であったことから、イフタル（齋戒を解く食事のこと）は一粒のナツメヤシと一杯の水で始めることが推奨されている。

サウムというこの静かな崇拝行為は、世界中に住む一日の食べるものにも事欠く人々に対して、親切に接すること、手助けをすること、かれらに手を差し伸べること、といった共感の気持ちを私たちに呼び起こす。またサウムは至高のアッラーをより良く理解するための手助けとなり、アッラーへの感謝の気持ちを呼び起こす。

またサウムには、さまざまな科学的効用も発見されている。たとえば、私たちは齋戒することによって、私たちの消化器官を十分に休ませることができ、体内の脂肪蓄積物が減り、体内の毒素は減少する。また齋戒によって免疫器官を強化し、依存性という問題に打ち勝つことができる。また齋戒を解くための食事（イフタル）の際に口にするナツメヤシは消化を助け、コップ一杯の水は二つの肺を洗浄する働きがあることが発見されている。

ハッジ（巡礼）：イスラームでは、巡礼のための財力がある者に限り、一生に一度、巡礼することが課される。ハッジは特定の月（ヒジュラ暦の12月）に特定の場所で行われ、ハッジの時期には、世界中から人種、色、言語、年齢、社会階級を異にする人々が一堂に会する。そしてムスリムが一同に会することによって、イスラーム共同体、ムスリム同士の関係は強化されるのである。

そして近代科学によって発見された注目すべき点は、ハッジにおいてムスリムがカアバ聖殿を七周反時計回りに周るということは、アッラーが創造した宇宙の秩序に調和した他の宗教には見出すことのできない唯一の崇拝行為だという点にある。たとえば、物質をつくる最小単位である原子を構成する原子核とその周りを回る電子は、七つの異なるレベルのパワー（K. L. M. N. O. P. Q）からなり、反時計回りに回転している。同様に、地球も反時計回りに自転し、

太陽の周りを反時計回りに公転している。これはカアバ聖殿を巡礼するムスリムの姿に重なる。

イスラームは高貴で善き品性、そして賢明かつ有意義な知識を内包する。それは誠実さ、信頼、慈悲、公正さ、良質、高貴さ、恩赦、相互協力、相互免責などを推奨する。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「お前たちのなかで最も善き者は、品性において最も優れた者である。」
(ブハーリーの伝承より)

「お前たちのなかで審判の日において最も私に親しく、近い者は、品性において最も優れた者である。」 (ティルミズィーの伝承より)

そしてイスラームは、個人と社会間を更生する力強き法体系を齎した。それは人生のさまざまな分野で人間の覚醒につながる。

ア イスラームは、私たちに良きもの、私たちが益するものをすべて与られ、人間の害となるものを禁じられた。食事における豚肉や死肉（近代科学で、人間に害を与える病気の原因となることが証明されている）、飲料におけるワインなどの発酵酒やアルコール飲料などがその一例である。これらのものは、人間の理性を失わせ、獣的行動をとる原因となり、また人間をさまざまな病気を含む破滅の道へと誘いこむ

イ イスラームは、売淫、殺人、姦通、窃盗、不正などの悪行を禁じ、個人、もしくは社会全体を腐敗へと導くありとあらゆるものを禁じている。

そしてこの他にも、イスラームによって齎された力強き秩序、英知が数多く存在する。



現世における試練や困難、諸現象とその対応策

イスラームは人間が直面しうるさまざまな試練を明示している。ここではそのような試練について考察する。

1－試練はいわば人間にとってある種のメッセージであり、説教である。試練によって明らかになるのは、人間の弱さで（たとえどれだけ屈強な人間がいても）、創造主の必要性であり、その試練（人生における病気、貧困、苦難など）における援助者、支援者の存在である。

2－私たちは、この儂い現世における真実を知る必要がある。現世での愉しみは、いつかは終焉を向かえる人間の一生における一時的な慰めに過ぎない。それは永続せず、人間の死、または時が経つにつれて、終わりを迎えるものである。したがって私たちは、儂い一時的な快樂、現世のために自らを欺くべきではない。人間は理性的な考える葦である。常に信仰者、服従者、その命令の実践者として神と繋がっていなければならない。そして（現世ではなく）来世のために行動を起こさなければならない。来世こそは終わることのない永遠のもので、現世での行いが報われる場なのである。

3－災厄こそが、人間が直面する試験であり、来世へのステップである。

この試練において、創造主の許に、信仰者として、またその裁きに満足し、かれが与えられた試練によく耐え忍んだ者として戻るのか、それともかれに反目する者、他の神を信仰し、退廃した者としてかれの許に戻るのか、が問われている。

－「そして確かにわれらはおまえたちをなんらかの恐怖や飢え、そして財産、命、収穫の損失によって試みる。そして忍耐する者には吉報を伝えよ。」
（雌牛：155）

私たちは、死に直面する日を常に念頭に置かなければならない。現世は永遠に継続するものではなく、健常者、頑強な者、富者、皇帝であってもそれは同様である。次の段階には別の世界が待っており、そこで人間は現世での行い、信仰を問われるのである。

現世での生活はいつか終わりを告げ、別の世界が到来するのである。そのときこそ至高のアッラーの裁きるときであり、その報いは永遠に快適な楽園であるかもしれないし、あるいは痛苦の懲罰である火獄であるかもしれない。現世は決して来世と同じ意味を持つものではない。

試練に直面したときの対応策

まず、崇高かつ至高の創造主とその神性が唯一のものであることを信仰すること、そしてかれが全能で、人間には不可能なこともかれには可能であることを確信することである。かれこそは、唯一の存在であり、人間は、かれに縋り、祈り、懇願することでさまざまな種類の試練から教訓を得て、前進することができるのである。

そして、見出すことのできるあらゆる方法、手段を用いて、試練を乗り越え、克服しなければならない。

最後に預言者ムハンマドﷺの言葉を紹介する。このような試練、苦難を耐え忍んだ者は、至高のアッラーの許で大きな報奨にあずかることができる。崇高かつ至高のアッラーが明示されたように、審判の日にはすべての行為に対してその報いがあり、永遠の楽園がかれを待っているのである。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「信仰者にとってすべてにおいて善があることは何と素晴らしきことだろう。そしてそれは信仰者にしか当たらない。もし繁栄があれば神に感謝し、逆境に陥れば忍耐して耐え忍ぶ。それは信仰者にとってより良いことである。」
(ムスリムの伝承より)



預言者ムハンマドﷺ（の）教友たちへの教え、実践、固執

イスラームは人間の精神における高貴な品性を推奨する。預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「私は高貴な品性を完遂するために遣わされた。」（アルバーニーが真正と見なしたマーリクの伝承より）

称えられるべき道徳を兼ね備えた高貴な品性を持ち合わせていることが、ムスリムとして至高のアッラーへ近づき、樂園での位階を高き上げることにつながるのである。

預言者ムハンマドﷺは、さまざまな差異、民族主義、騒乱を超えた一つの共同体「ウンマ」を創設するというイスラームのための宣教の中で多くの困難に直面した。また23年という短期間で良識と公正、善に基づくイスラームの国家を創建した。かれは論理的かつ理性的対話を用いての指導、かつて広い地域において支配的だった悪しき品性、墮落、姦邪に代わりイスラーム教を懇切丁寧に広めることにおいて支配者であり、また教友たちに対してイスラームの教えを伝えることにも余念がなかったのである。ここにその人生から見えて来る教友たちへの教育について簡単に概観してみることにしよう。

1 - アナス・ブン・マーリクは言われた。

「私は預言者ムハンマドﷺに23年間仕えましたが、一度も「ちえ」など不平を聞いたことはありませんでしたし、私がしたことに対し、何故それをしたのか、とか、私がしなかったことに対して、何故それをしなかったのか、などと言うこともありませんでした。アッラーの預言者は品行において最も優れた人物でした。」（ティルミズィーの伝承より）

2 - 預言者ムハンマドﷺは、その日ナジュラーン（ヒジャーズとイエメンの間に地方）のコートを手につけていた。コートはとても丈夫なもので、ベ

ドウィンのアラブ人の目に留まった。そのコートに魅了され、たまらなく欲しくなったそのアラブ人は預言者ムハンマドﷺのその無礼で不躰な調子で言った。

「ムハンマドﷺよ、お前が持っているアッラーの所有品を俺にくれよ。」

すると預言者ムハンマドﷺは慈悲深く寛大に微笑み、彼にいくばくかの所持品を与えた。（イマーム・アフマドの伝承より）

3 - アラブ人が預言者ムハンマドﷺの許へやってきてサダカ（喜捨）を求めた。預言者ムハンマドﷺはそれを与えて言われた。「これで良いだろうか？」アラブ人は言った。

「いや、まったく。」すると、彼の発言に怒ったムスリムたちは彼に殴りかかろうとした。預言者ムハンマドﷺは、それを制された。そして家に帰られ、さらに多くのものをアラブ人たちに与えられた。「これで十分かな？」
「ああ、アッラーがあなたとあなたの部族に良き報奨を与えますように。」預言者ムハンマドﷺは言われた。

「あなたが私に言ったことが原因で、教友が気分を害してしまった。もし良かったら、今私に言ったことをもう一度かれらに言ってくれないか？怒りが収まるだろうから。」アラブ人は了解した。明日になってそのアラブ人がやって来ると、預言者ムハンマドﷺは言われた。「このアラブ人は、昨日のようなことを言ったが、その後に私がより多くのものを与えたら満足したと言う。その通りですよ？」アラブ人たちは言った。

「ああ、アッラーがあなたとあなたの部族に良き報奨を与えますように。」預言者ムハンマドﷺは言われた。

「私と彼（の関係）は、まるで逃げたラクダと、それを所有する男のようである。人々がラクダを追いかければ追いかけるほど、ラクダは反抗する。所有者が人々を呼んで、私に任せさない、私はラクダの扱い方を良く知っている、と言って、正面から向かっていき、ラクダが跪き、鐙をかけるまで一握りの餌を与えるのだ。」（アルバッザールの伝承より）

その後、預言者ムハンマドﷺの思いやり、寛大さ、慈悲、心の広さが明らかになった。それはアラブ人たち、そして教友たちにどのように他者と接するべきからということを教育することになったのである。

4 -アナスは言われた。

- 「アッラーの預言者は、最も美貌を兼ね備えた、最も寛大で、最も勇敢な人物でした。一度マディーナの民が夜の砲撃の音に怯えていると、真っ先に剣を持ち、鎧なしのアブー・タルハの馬に乗り、民の許に駆けつけ、恐れるな、恐れるな、と民衆に声をかけていました。」（ブハーリーの伝承より）

かれらムスリムたちがその夜、その騒音に恐れおののき、敵が襲ってくるのではと、夜も寝付けなかったときに、その騒音の原因を突き止めようと立ち上がり、恐れることはないという確信をもって戻って来たのは預言者ムハンマドﷺだったのである。この史実によって預言者ムハンマドﷺの偉大な勇敢さが明らかになった。

5 -アブドッラー・ブン・アーミル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言われた。

- 「ある日、母が私を招いて、こちらに来て、与えるものがあるから」と言った。するとアッラーの預言者が彼女に言われた。「何を与えるつもりだったのですか？」彼女は答えて言った。「少量のナツメヤシを与えるつもりでした。」すると預言者は言われた。「もしあなたが彼に何も与えるつもりがなかったのなら、あなたに対して嘘は記録されるだろう。」（アハマドの伝承より）

この伝承によって預言者ムハンマドﷺが伝えたかったことは、たとえ子供に対してであっても、嘘は決して許されるものではない、ということである。子供たちが嘘をつくことを学び、嘘をつくことに慣れてしまうことのないよう、子供に対しては正直に接しなければならない。

6 -サフル・ブン・サアド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言われた。

預言者ムハンマドﷺに飲み物が提供され、預言者ムハンマドﷺそれを飲まれた。そしてそのとき、預言者の右側には年少の少年が、左側には年配の老人たちがいた。預言者は少年に尋ねた。

「かれら（老人たち）に先に飲ませて良いか？」少年は答えて言った。

「いいえ、私の順番は誰にも譲りたくありません。」

「すると預言者は彼に飲み物の入ったコップを与えた。」
(ブハーリーの伝承より)

通常このような場合、預言者ムハンマドﷺの右側にいる者が、まずその権利に与ることになる。しかしそのとき、預言者ムハンマドﷺの右側にいたのは小さな少年で、左側にいたのは年をとった老人たちであった。したがって預言者ムハンマドﷺはまず飲み物を、敬意を示して年長者たちに提供したかった。しかし、順番を考えるならば、それは少年の権利を踏みじめることになる（なぜなら少年は、そのとき預言者ムハンマドﷺの右側にいたのだから）。そこで預言者ムハンマドﷺは少年に許可を得ることで解決を図ろうとした（少年に権利があることを認めることによって）。しかし、その少年は預言者ムハンマドﷺから飲み物を得るという機会を誰にも譲りたがらなかった。そこで預言者ムハンマドﷺは、その少年とその後のウンマ（イスラーム共同体）の権利と公正さを認め、そして少年の重要性、少年の礼節ある勇敢さと意見の表明を認め、その要望に応じることにした。預言者ムハンマドﷺは非常に賢明な教育者であった。

7-預言者ムハンマドﷺが夏のある時期に不信心者との戦争から戻るとき、かれの仲間たちと一緒に沢山の木々が生い茂る谷を通りかかった。仲間たちはお互い散って思い思いに木の木陰で休息をとることにした。アッラーの使徒も木陰に行き、木の枝に剣をひっかけて横になった。するとそこにベドウィンのアラブ人がやって来て、剣を手に取り、その鞘から取り出した。預言者ムハンマドﷺが起き上がると、そのアラブ人は言った。

「私が怖いか？」

預言者ムハンマドﷺは言われた。

「いや、怖くはない。」

「誰があなたを私から守ってくれるというのか？」

「アッラーが（三回繰り返す）」

するとアラブ人の手は震え硬直し、剣がその手から落ちた。その剣を拾った預言者ムハンマドﷺは彼に言われた。

「誰があなたを私から守ってくれるというのか？」アラブ人は言った。

「頼むから許してくれ。」

すると預言者ムハンマドﷺは言われた。

「アッラーの他に神はないと言うか？」アラブ人は言った。

「いや、しかし私はもうあなたに対峙することもないし、あなたの敵側につくのもやめよう。」預言者ムハンマドﷺは彼をお赦しになり、自由にした。そのあとアラブ人は彼の部族の許に戻り、言った。

「私は人々の中で最良の者に会って来た。以後、彼の代わりになる者は現れず、彼を援助する者もない。」（ジャーベルのハディースのイマーム・アハマドによる概説）

この事件によって、彼を殺そうとした者に対して示された柔和さ、赦し、寛大さが明らかになり、また預言者ムハンマドﷺが崇高かつ至高のアッラーに対していかに確信、信頼の念をもって縋っているかが明らかになった。

8 - ムスリムたちが、不信仰者の敵たちからの侵攻を防ぐために、塹壕を掘っていると、大きな岩の前に立ち往生した。その岩は非常に頑強で、つるはしを持ってしても破壊することはできなかった。ムスリムたちは預言者ムハンマドﷺに不平不満を言い始めた。すると預言者ムハンマドﷺはビスミッラー（神の御名によって）と言い、つるはしを振り下ろした。すると岩の三分之一が砕けた。預言者ムハンマドﷺはアッラーフ・アクバル（神は偉大なり）と言い、ムスリムたちのシャーム地方での戦いの勝利を予言した。なおも預言者ムハンマドﷺは手を止めず、三分の二の岩が砕けた。預言者ムハンマドﷺはアッラーフ・アクバルと言い、将来ムスリムたちのペルシア地方での戦いの勝利を予言した。そして預言者ムハンマドﷺがなおもつるはしを振り下ろすと最後の三分の三が砕け散った。さらに預言者ムハンマドﷺはアッラーフ・アクバルと

言い、将来ムスリムたちのイエメン地方での戦いの勝利を予言された。（ナサーイーが伝承したハディースの概説より）

そして実際に、これらの予言は的中し、その国々にイスラームの宣教が到達し、その国の民衆が次々とイスラームに入信していったのである。

これらの事実は、預言者ムハンマドﷺの至高のアッラーへの忠誠心、信頼感の高さを見ることができる。ものごとを始めるときは、ビスミッラーと神の御名を唱え、その仕事が終わるとアッラーフ・アクバルと神の偉大さを称える。彼が岩を砕くということが成功に終わったのも、彼の徳によるものだけではなく、アッラーの偉大さを称えることに拠るものであり、かれに不可能ということはないのである。そしてこのことは教友たち、その後続く共同体にとってアッラーにお縋りし、その庇護を仰ぐことがどれだけ重要なのか、を知るためのよい教訓となったのである。

またこのことは敵と対峙したときの、恐怖、心配、弱さから預言者ムハンマドﷺがどのように希望の精神、勝利への希求を奨励したか示され、また預言者ムハンマドﷺの崇高かつ至高のアッラーの教え、宣教への確信の強さが示されたのである。

9 -アナス・ブン・マーリクは言われた。

「私たちが預言者ムハンマドﷺと一緒にモスクにいるときにベドウィンのアラブ人たちがやって来て、小便をしはじめた—そのモスクは砂と絨毯が敷き詰められていた

—ので預言者ムハンマドﷺの教友たちはかれらに言った。

「止めなさい」すると預言者ムハンマドﷺは言われた。「続けなさい」そしてそれが終わると再びかれらに言われた。

「このモスクは小便によって改善するのではない。アッラーへの唱念と礼拝、そして聖クルアーンの朗誦によって改善するである。」そしてその後、男たちにその場所を水で綺麗にするように命じられた。（ブハーリーの伝承より）

この出来事によって預言者ムハンマドﷺの英知が明らかになった。力や暴力によって解決しようとした教友たちを制し、言葉によって英知を与えることによって問題を解決したのである。

10-ある男が預言者ムハンマドﷺの許にやって来て言った。

私の妻が黒人の子を産みました（その子の存在を否定して）。

すると預言者ムハンマドﷺは言われた。

「あなたは羊を飼っていますか」－ええ－

「その中に浅黒いもの、もしくは灰色のものはいますか」－ええ－

「それはどこから来たのですか？」－おそらく血統からだと思います－

「この子もおそらく血統から来たのだと思います。（先祖からの一つの性質）」（ブハーリーの伝承より）

預言者ムハンマドﷺは単なる男の妄想によってその男の子を否定することを認めなかったのである。

また預言者ムハンマドﷺは、論理的かつ理性的対話によって、無実の男の子の血統が失われること、またムスリムの家族の分割といったような深刻な問題の解決のやり方も示された。それはこの男を納得させ、近代遺伝科学によってもこのようなことが起こる可能性を示唆している。またそこに妻が夫を裏切るようないかなる根拠も存在しないこと、そして預言者ムハンマドﷺの家族の保持と独立、ひいては社会の独立を守ることに於いて、その役割と英知が明瞭になった。

さらにここでは言及できなかったが、預言者ムハンマドﷺの生き方にはまだまだ多くのイスラームの教えの奨励と高貴な目的を明らかにする輝かしい方法が内包されている。

また預言者ムハンマドﷺのその高貴の生き方には多くの模範的内容が隠されており、教友たちにも大きな影響を及ぼし、善と徳に基づいた新しい世代の教育に生き生きとした役割を果たしたのである。

かつて預言者とともにマッカからマディーナに遷都した教友の一人は、かれらはすべての財産、持ち家を手放して、至高のアッラーの宗教—イスラーム—の堅持、固持のためにすべてを犠牲にしたのである。

また教友の一人であったアブドゥラフマーン・ブン・アウフは他のムスリムと同様、持ち家、財産、家族もない状態でマディーナに遷都したのであった。そしてマディーナで預言者ムハンマドﷺの教友の一人であったサアド・ブン・ラビーウはマディーナで預言者ムハンマドﷺとその教友たちを温かく出迎え、協力を惜しまなかった。そしてアブドゥラフマーン・ブン・アウフに言われた。「私の財産の半分はあなたのものだ。」当時サアドには2人の妻がいて、彼はアブドゥラフマーン・ブン・アウフに言われた。「私の妻のうち美しい方を選びなさい。よく見て気に入ったなら、私は彼女との離婚を解消し、あなたと結婚させよう。」

つまりサアド・ブン・ラビーウはアブドゥラフマーン・ブン・アウフと同じムスリムの兄弟として協力したく、自身を優先して財産の半分をかれに与え、自分の妻を結婚させたのである。これこそイスラームの実践的な教えであり、預言者ムハンマドﷺがかれら教友たちに教えたことであり、祝福された至高のアッラーからの報奨を得ようという欲求なのである。

「またたとえ、自分自身に欠乏があっても自分自身よりも（他の同胞を）優先する。また、己の強欲から護られた者、それらの者、かれらこそ成功者である。」（追い集め：9）アブドゥラフマーン・ブン・アウフは預言者ムハンマドﷺの許で、イスラームの教育—常に自信をもって物事に取り組み、他人に対して恨み言の一つも口にせず、かれらの良きを祈るという—によって育てられた教友である。彼の信仰上の兄弟であるサアドは言う。

「あなたの家族、そして所有物にアッラーの祝福あれ」（商売において成功するように）

（ブハーリーの伝承より）

その後、アッラーの祝福のうちに生きていたアブドゥラフマーン・ブン・アウフに徳と恵みの扉は開かれ、彼は教友の中でも有数の裕福な教友の一

人となったのである。そして彼は貧困者、援助を必要とする者たちに、その富を分配し続け、その生きざまはイスラームの教えの模範的例となったのである。

最後に、預言者ムハンマドﷺの外見的、精神的特徴を記して、この項を締めくくりにしよう。

彼は常に思慮深く、物静かで、不必要に口を開くことはなく、温和で、自分自身に対して怒りを露わにされることは決してなかった。（彼が怒りを露わにされるのは、彼の権利が侵されたときだけだった）常に微笑みを浮かべ、ときに冗談を言われ、教友たちと楽しそうに過ごし、真実以外は口にしなかった。

称えられた預言者ムハンマドﷺの資質

その目は輝くようで、色白の顔は少し赤みを帯びていた。顔の輪郭は満月のように、目元はまるでアイラインを引いたように美しかった。目は大きくはっきりしていて、睫毛は長く、眉毛は薄く長かったが繋がってはいなかった。おでこは広く、鼻は高く、唇は最もよく整っており、前歯に隙間があり、話すところから光が出ているように見えた。その髪は黒く、髪質は直毛とくせ毛の中間程度、首は純銀のようで、顎髭は真っ黒だった。（年をとると、若干白髪が混ざったが）身体は頑強で、中肉中背であった。その胸板は広く、腹筋はよく引き締まっていた。大巡礼や小巡礼で身体の一部が露わになると、その肌は白く輝くようだった。

そしてこの他にも預言者ムハンマドﷺの性質は数えきれない程存在する。これらの良好な性質は預言者ムハンマドﷺがアッラーによって選ばれた最後の預言者であることの証明である。

イスラームと共通する日本の伝統、規則による発展と文明化

すでにさまざまな分野におけるイスラームの高貴な教えと法則については述べた。ここでは、秩序という点において、日本社会に見られるイスラームとの共通点について光を当ててみたい。日本社会に見られる秩序は、日本の経済発展、高度な文明化の大きな要因の一つである。ここでは特に学問と実践、道徳、教育の分野についてのハディースを見てみよう。

一教育と道徳分野のイスラームの教え

「お前たちはみな羊飼いであり、その群れに対して責任がある。男はその群れに対して責任があり、女は夫の家において羊飼いであり責任がある。召使いは主人の財産に対して羊飼いであり、責任を有する。」（ブハーリーの伝承より）

1 称賛された道徳と高貴な品性に基づく教育の重要性

それはたとえば、誠実さ、信用、公正さ、客人のもてなし、両親への孝行、そして隣人への親切心、困窮者、貧者への思いやり、また嘘、裏切り、不和といった悪しき性質へ近づかないよう留意することである。

聖クルアーンと真正ハディースによる明示

－「そしてアッラーに仕え、かれになにもものも並び置いてはならない。そして、両親には心尽くしを。また、縁故のある者たちや孤児たち、貧者たち、縁故のある者の隣人、縁遠い隣人、隣り合った連れ、旅路にある者、そしておまえたちの右手が所有する者（奴隷）にも。まことにアッラーは尊大な自惚れ屋を好み給わない。」（女性：36）預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「信仰者は、他人を蔑まず、呪わず、罵らず、低俗であってはならない。」（アフマドの伝承より）

ムスリムは呪う者ではなく、蔑み罵る者でもない。また行為と品性において悪しき者であってはならない。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「私はあなたたちに最も大きな大罪とは何か、伝えませんでしたか？」

「いいえ」

「アッラーに他の者を配すること、両親への反目、そして自殺です。」そして座りなおして言われた。

「そして虚偽の宣言と虚偽の証言である。」（ブハーリーの伝承より）
預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「小さな男の子に、さあ、来て、これを与えるから、と言ってもし与えなければ嘘をついたことになる。」 (アフマドの伝承より)

- 「あなたに借りがある者にも、信託物を返し、あなたを裏切った者も裏切ってはならない。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「次の四つの性質を持つ者は、真の偽善者である。そしてその中の一つにでも該当する者は、偽善者の傾向を持っていると言える。かれらは、委託されれば、放棄し、口を開けば、嘘をつき、契約を結べば、信用せず、口論すれば罵り、無礼な口を利く。」 (ブハーリーとムスリムの伝承より)

- 預言者ムハンマドが市場を歩いていると、食べ物が山のように盛られているのを目にした。

そこで手を触れてみると水で湿っているのが分かった。そこで、

「これは一体どうしたことだ？」と尋ねると、商人は答えて言った。

「雨に降られたのです、アッラーの預言者よ。」そこで預言者ムハンマドは助言をされた。

「これは、人々に綺麗に見せるためではなかったのか？計量を偽る者は、私たちの仲間ではない。」 (ムスリムとアハマドの伝承より)

- 「私と孤児の面倒を見る者は、このように樂園に入る、と言って、二本指でもって示された。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「アッラーと審判の日を信じる者は、隣人を貶めない。」 (ムスリムの伝承より)

- 「アッラーと審判の日を信じる者は、隣人を貶めず、客人をもてなし、良い言葉を口にし、口を慎んでいる。」 (ブハーリーの伝承より)

2 清潔さ、外見の美しさ、清潔さを保つことの重要性預言者ムハンマドは言われた。

- 「アッラーは美しく、また美しいものを愛でられる。」 (ムスリムの伝承より)

これは私たちの人間の身体、服装、そして外見の清潔さを保ち、また自らの住居の他に、近隣の通りや道のりを清潔に保つことの重要性を伝えるものである。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「至高のアッラーこそ善であり、善を愛でられ、清潔であり、清潔さを好み、高貴であり、高貴さを好まれ、寛大であり、寛大さを好まれる。したがってあなたたちの中庭を清潔に保ちなさい。」（ティルミズイーの伝承より）

イスラームでは、礼拝の際に身を清めることは義務である。それは毎日の五回の礼拝の際に行われ、両手を洗い、口をゆすぎ、鼻を清潔にし、そして顔を洗う。それから、両手の肘までの部分を洗い、髪の毛に触れ、両耳を洗い、両足を踵まで洗う。

イスラームでは身を清める際に使う水の量も、無駄な浪費にならないよう配慮が必要である。

－預言者ムハンマドﷺが、ちょうど身を清めているサアドを見て言われた。

「この浪費のやり方はどういうことだ？」

「ウドゥー（身の清め）が浪費でしょうか？」「そうだ、たとえ、あなたが川のほとりにいたとしても。」（アハマドの伝承より）

イスラームでは、礼拝の身の清めの際ですら、必要以上に水を浪費することは許していないのである。

－そしてイスラームでは就寝前と早朝の起床後にする身の清めを非常に推奨している。

－そしてイスラームでは沐浴の清めも推奨している。沐浴は人間の身体を完全に洗うもので、清純かつ清潔な水で行われる。これも身体の清潔さがイスラームにおいていかに重要か分かる例である。

－またイスラームでは、良い香りのする香水を使用することも推奨事項の一つである。それは人間の精神に心地良く快適さをもたらす。預言者ムハンマドﷺもかつては良い香りを非常に好まれ、よく香水を使用していた。

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言われた。

－「未だかつてアッラーの預言者のような良い香りや、麝香、龍涎香の香りを嗅いだことがない。」（アハマドの伝承より）

ーイスラームは清純さと清潔さを推奨する。預言者ムハンマドﷺもかつて礼拝前と就寝前、そして起床後に使用していたスィワークと呼ばれるアラクの木から作られた歯ブラシを使用しており、スィワークは歯と口内の清潔さを保つのに非常に有効である。スィワークは口内を清潔にし、口内の悪臭を除去し、不潔が原因で生じるさまざまな害悪から口内を守り、好ましい良い香りを与える。

また預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「スィワークは口を清潔にし、それはアッラーを喜ばせる。」（ナサーイーの伝承より）つまり清潔さ（口内の清潔さも含む）は、至高のアッラーの喜びの源泉なのである。

ここでもイスラームの清潔さに対する関心の高さが窺える。イスラームは清浄の宗教なのである。

ーそして近代科学は実際に、スィワークを使用することの多くの効用を発見した。スィワークはアラクの木から作られるが、アラクには多くの清浄な物質が含まれており、殺菌作用がある。そして現代では口内を清潔に保つために、歯磨き粉の原料としても使用されている（アラブ諸国でよく売られている）。また、スィワークを使用すれば、その唾液を飲み込んでも害もなく安心であるが、現代の歯磨き粉に含まれる化学物質は飲み込めば害があることが分かっている。（特に小さな子供に対して）預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「道から害悪になるものを除くこともサダカである。」（ブハーリーとムスリムの伝承より）

－「ある道を歩いていた男が、先の尖った小枝を見つけたので、道の路肩に移動した。アッラーは彼の行為に満足し、彼の罪を赦された。」（ムスリムの伝承より）

3 謙虚であり傲慢にならないことの重要性至高のアッラーは仰せられる。

- 「また人々におまえの頬を（傲慢に）背けてはならず、地上を得意然と歩いてはならない。まことに、アッラーはいかなる尊大な自慢屋も愛し給わない。」
（ルクマーン：18）

- 「またおまえの歩みにおいて中庸であれ、おまえの声をひそめよ。まことに、声の中で最も厭わしいのはロバの声（煩い嘶き）である。」
（ルクマーン：19）預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「アッラーは私に明示された。謙虚でいなさい、驕り高ぶらず、悪口を避けなさい。」

（ムスリムの伝承より）

- 「その心の中にカラシナの種ほどの驕りがある者は楽園に入れない。」
（ムスリムの伝承より）

4 規律の重要性

イスラームでは、自我や自我の形成における教育の場で、規律の土台となるものの強化を説いている。それはイスラームの教え、法、目的に明示されている。

たとえば、ムスリムが一同に会して行う礼拝は、皆が一行に並び、礼拝先導者の許で決められた共通の動作、動きによって礼拝を捧げる姿はその良い一例である。またこの他にも規律によってイスラームの秩序が強化された教え、法、目的が数多く存在する。

5 良い食品を選択し、害悪を及ぼすすべてのものを避けることの重要性

- 「信じる者たちよ、われらがおまえたちに糧として与えた良いものから食べ、アッラーに感謝せよ、もしおまえたちがかれにこそ仕えるのであれば。」
（雌牛：172）

- 「かれらに良識を勧め、悪行を禁じ、」（高壁：157）

6 食事の際の礼節の重要性

ア 食事前には両手を洗うこと。

イ 食事中は座って食べ、立って食べたり、歩きながら食べたりすることのないこと。

ウ 両膝座り（この座り方は、食事の際の日本の伝統的な座り方と完全に一致する。）もしくは、右足を左足の上に伸ばして座ること。この二つの座り方によって、暴飲暴食を防ぎ、胃の負担を軽減することができる。

エ 食事前にアッラーの名を唱え、（ビスミッラー）その食事の祝福を祈ること。そして、アッラーを賛美し、食後にはその恵みの豊かさに感謝すること。（アルハムドゥリッラー）

- 「アッラーは飲食の際に、アッラーを賛美するしもべに満足される。」
（ムスリムの伝承より）

オ 右手で食べること、自分の側にあるものから食べ始めること。

オマル・ブン・アブー・サラマ（アッラーのご満悦あれ）は言われた。
アッラーの預言者は私に言われた。

- 「アッラーの名を唱え、右手を使い、あなたの前のものから食べなさい。」
（ブハーリーの伝承より）

カ 身体にとって有益になるよう適量を摂り、決して食べ過ぎないように。それは害悪である。

- 「お皿一杯に食事を盛ることは、その者の胃にとって良くない。むしろ、人は何片かのパンがあれば背筋がピンと伸びる。もしそれをしないのなら、三分の一は食べ、三分の一は飲み、三分の一は空にしておきなさい。」
（ティルミズィー、イブン・マージャ、ナサーイーの伝承より）

キ 浪費せず、許された以上の量を浪費しないようにすること。さまざまな種類の食事、飲料を一度の食事で消費することは、害悪であり、さまざまな病気の要因になる。

- 「そして飲み、食べ、度を越してはならない。」（高壁：31）

ク 自分が食べられる適量のみを摂り、盛った食事を残すことのないように。それは浪費につながることになる。

- 「残りものには祝福がある。」 (アハマドの伝承より)

7 可能な限り食事を隣人と共有することの重要性預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「もしスープを作ったなら、少し水を加え、隣人に分けてやりなさい。そして礼節をもって退室しなさい。」 (ムスリムの伝承より)

- 「自らは満腹で隣人がお腹を空かしているような信仰者に楽園の場所はない。」 (ハーキムの伝承より)

8 他人への関心と思いやり、自分勝手にないことの重要性

- 「信仰する者たちよ、立礼し、サジダし、おまえたちの主に仕え、善をなせ。きっとおまえたちは成功するであろう。」 (大巡礼：77)

- 「自分自身のためにすることを、(信仰上)の兄弟にしてやりたいと思うまでは本当の信仰者とは言えない。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「(信仰上)の兄弟を手助けをする者は、アッラーが手助けをして下さる。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「(信仰上の)兄弟を手助けをできる者は、それを行いなさい。」 (ムスリムの伝承より)

- 「信仰者たちは兄弟にほかならない。それゆえ、おまえたちの兄弟両者の間を正し、アッラーを恐れ身を守れ。きっとおまえたちも慈悲を掛けられるであろう。」 (部屋：10)

9 他人の気持ちへの配慮と弱者、困窮者、年配者への関心と敬意の重要性預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「あなたたちの中から、私に弱者を探しなさい。」 (ティルミズィーの伝承より)

すなわち弱者、惨めな者、困窮者への援助、またかれらの救済の仕事や、かれらの要求を満たし、かれらの権利を保護することによって、アッラーの善意を求め、ご満悦を得なさい、という意味である。

そして、人はアッラーからのご満悦によって勝利者となる。至高のアッラーは、預言者ムハンマドﷺの教えを実行する者たちに満足される。それはアッラーこそが預言者を世に遣わし、人々のためにイスラームという高貴で寛大な教えを伝えたものだからである。

- 「最もアッラーが愛でられるのは、人々を益する者たちである。」
(タバラーニーの伝承より)

- 「子供を慈しまず、年配者に敬意を表さない者は、私たちの者ではない。」 (ティルミズィーの伝承より)

10 挨拶から生じる友人間の協力、友愛、社会との接点の重要性預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「アッラーの最も良い友とは、彼にとっての最も良い友である。」
(ティルミズィーの伝承より)

- 「アッラーに最も近い者（価値ある者）とは、まず挨拶をする者である。」 (アブー・ダーウードの伝承より)

つまり、アッラーに最も近く、最もアッラーの赦し、慈悲に値する者とは、まず人々に向かって挨拶をし、かれらの平安に思いを寄せる者である。そしてイスラームの挨拶「サラーム・アライコム」と言うことである。これは相手に安全、信用がありますように、と祈願するもので、この挨拶への返答は「ワアラコム・サラーム」であり、あなたたちにも安全、信用がありますように、という意味である。

- 「人々よ、お互い挨拶をし、食料を分け合い、寝静まった夜に礼拝をする者は楽園に入るだろう。」 (アハマドの伝承より)

- 「楽園は信仰者のもので、信仰者とはお互いを愛し合い者である。そして愛し合う者がまず行うことは、お互い挨拶を交わすことである。」
(ムスリムの伝承より)

- 「男が使徒に尋ねた。どのようなイスラームが最良ですか？」

- 「食事を分け合い、知っている者にも知らない者にも挨拶を交わすことである。」 (ムスリムの伝承より)

- 「どんな善行も見くびってはならない。微笑みをもって兄弟たちに対応することですら。」 (ムスリムの伝承より)

1 1 他者への配慮とかれらに対する助言の重要性預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「宗教とは、(誠実に) 助言することである。」 (ムスリムの伝承より)

つまり、他者に助言することは、イスラームの教えである。それは他者の善を願うことを意味し、かれらへの誠実な助言と指導は、益をもたらし、害悪を避ける。

1 2 他人に対して礼節をもって接することの重要性預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「人々に礼節をもって接しなさい。」 (ティルミズィーの伝承より)

1 3 客人をもてなすことの重要性

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「アッラーと審判の日を信じる者は、客人を歓待しなさい。」 (ブハーリーの伝承より)

1 4 隣人に対する善行の重要性とかれらを訪問し、かれらの権利を守る
こと預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「アッラーと審判の日を信じる者は、隣人に親切にしなさい。」 (ムスリムの伝承より)

- 「アッラーの許で最も良い隣人とは、彼の隣人にとって最も良き者である。」 (ティルミズィーの伝承より)

1 5 時間を浪費せず、約束を守り、契約と協定を守ることの重要性時に
かけて(誓う)、(時: 1)

つまり、至高のアッラーが時に誓うということは、イスラームにおける時の重要性と権限を物語っている。イスラームは時を活用し、上手く利用し、善き目的のために使用し、無駄に浪費することのないよう勧める。

- 「信仰する者たちよ、契約を果たせ。」（食卓：1）

- 「また、約定を果たせ、まことに約定は尋問されるものである。」
（夜行：34）

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「偽善者のしるしは以下の三つである。話せば、虚偽を話、約束をすれば、それを履行せず、委任をすれば、それに反逆する。」（ブハーリーの伝承より）

つまり、信仰者は欺瞞、約定の不履行、裏切りなどのあらゆる不義から遠い存在なのである。

16 我慢と忍耐、そして前向きであり絶望しないことの重要性

- 「信仰する者たちよ、忍耐し、競って忍耐し、備えよ。そしてアッラーを恐れ身を守れ。

きっとおまえたちは成功するであろう。」（イムラーン家：200）

- 「まことに、恐れ身を守り、忍耐する者、まことにアッラーは善を尽くす者たちの報酬を損ない給わない」。（ユースフ：90）預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「絶望してはならない。最も良き前兆とは、誠実な言葉である。」
（アフマドの伝承より）

イスラームに絶望は存在せず、むしろイスラームとは誠実な前向きな言葉による希望であり、前兆なのである。

17 真剣に取り組むこと、物事を極めることの重要性預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「アッラーは、その仕事を完全に習得した者を愛でられる。」
（アブー・ヤアラーとタバラーニーの伝承より）

18 連帯の重要性

- 「そして互いに善行と畏怖のために助け合い、罪と無法のために助け合ってはならない。」（食卓：2）

- 「信仰者はお互い建物の土台のようなもので、お互いを強化し合う。」（ブハーリーの伝承より）

- 「アッラーの御手は、集団（連帯）と共にある。」（ティルミズィーの伝承より）つまり、至高のアッラーは集団（連帯）を祝福され、かれらを成功に導く。

19 読誦への関心、奨励、促進の重要性

- 「誦め、おまえの主の御名において」（凝血：1）「誦め。そしておまえの主は最も気前よき御方であり、」（凝血：3）

①学問、教育の推奨、知識への高い評価そして言え、

- 「わが主よ、私に知識を増し給え」。（ター・ハー：114）

- 「アッラーのしもべたちのうち知者たちこそがかれを懼れる。」（創始者：28）

- 「アッラーは、おまえたちのうち信仰する者たちと、知識を授けられた者たちには位階を上げ給う。」（抗弁する女：11）

②知識を持つ者への高い評価

- 「知識人の価値は一般信徒に比べると、月とその他の星々のようなものである。」（ティルミズィーの伝承より）

- 「人々を、かれらの家に降ろしなさい。」（アブー・ダウードの伝承より）

つまり、かれらにはかれらの家があり、それを保持し、正当にかれらを実評価しなさい、という意味である。

③売買に関する教え

- 「また、おまえたちが軽量する時には量目を十分にし、正しい秤で量れ。それは（来世の）結末としてより良く、優れている。」（夜行：35）

- 「売買の際、また金銭の貸し借りの際に寛大な者にアッラーの慈悲がありますように。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「正直で信用のおける商人は、預言者たちと正直者たちと殉教者たちと共にいる。」 (ティルミズィーの伝承より)

つまり、かれは樂園の最も高い位階に上げられるのである。

④労働に関する教えア 労働の推奨

- 「自身の労働によって用意された食事より、良い食事は無い。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「ロープを持って行き、薪の束を背負い、それを売って生活の糧にする方が、他人に無心するより自らの自尊心にとって良い。」 (ブハーリーの伝承より)

イ 朝早く仕事に出かけ、時間を有効に使い、浪費を避けること (効率の良い働き方)

- 「至高のアッラーは早朝の共同体を祝福される。」 (ティルミズィーの伝承より)

20 継続的な労働と改善の重要性

- 「そして、善を尽くせ。まことにアッラーは善を尽くす者たちを愛し給う。」 (雌牛：195)

- 「アッラーは、すべてにおいて善を刻み込まれた。」 (ムスリムの伝承より)

善行とは、仕事における善行のことで、善を尽くす者とは、仕事に熟練した者のことである。仕事における善行は、進歩的な方法で、技術的開発への関心によって生じる。

これは「改善」の原理と対応するものである。「改善」の原理とは変化を求め、素早く、しかし継続的に仕事を実行する、という原理である。

2 1 人生最後の瞬間まで努力することの重要性

- 「審判の日が近づいても、あなたたちがヤシの木を刈っていて、それを継続できるなら、それを継続しなさい。」（アハマドの伝承より）

つまり、たとえ現世の終わり、人生の終わり（それは全ての被造物の終末を意味する）が近づいても、信仰者の手元に小さな小枝一本でも残っていたのなら、できる限りそれを植えなければならないし、一現世の終焉が近づいているので、たとえその行為が益にならないとしても一その瞬間を有効活用しなければならない。信仰者は常に努力し、奮闘努力を最後の瞬間まで行う意志を持つ必要がある。そしてそのような努力は、至高のアッラーによって報われ、至高のアッラーは信仰者の奮闘努力に満足される。

至高のアッラーは仰せられる。

- 「まことに、信仰し、善行をなした者、まことにわれらは行いを良くした者の報酬を損ないはしない。」（洞窟：30）

最後に次の点に言及して、本章を締めくくりたい。

ア イスラームの教えと共通する日本社会で広く流布しているもの

1 一 挨拶とサラームを交わすことの実践

- 「アッラーに最も近い者（価値ある者）とは、まず挨拶をする者である。」（アブー・ダーウードの伝承より）

- 「男が使徒に尋ねた。どのようなイスラームが最良ですか？」

「食事を分け合い、知っている者にも知らない者にも挨拶を交わすことである。」（ブハーリーの伝承より）

2 一 隣人への配慮とかれらに挨拶、訪問すること

- 「アッラーと審判の日を信じる者は、隣人に親切にしなさい。」（ムスリムの伝承より）

3－社会に友愛と愛情を広めることの計画

－「お互いに贈り物を送り、お互いを愛し合いなさい。」（ブハーリーの伝承より）

4－笑い方と大きな声を人々の間で抑える作法

－「確かにおまえたちにはアッラーの使徒のうちに良い模範があった。アッラーと最後の日を期待しており、またアッラーを多く想念・唱名した者にとっては。」（部族連合：21）

かつて預言者ムハンマドﷺの笑いの多くは、微笑む程度であった。そしてたとえ大きな喜びの状態にあっても、その笑いは物静かで、常に冷静で大きな声を上げることはなかった。

5－他者との接触において他者を悦ばせる微笑みかつて預言者は、常に喜びにあふれ、微笑み、親しみやすく、高貴な精神の持ち主だった。

アブドッラー・ブン・ハーリスは言われた。

－「預言者より多く微笑む人間を見たことはない。」（ティルミズィーの伝承より）

かつて預言者ムハンマドﷺはイスラームの宣教で非常に多忙であったにも関わらず、そのことが彼の喜びに悪影響を与えることはなかった。常に喜びいっぱい微笑みで教友たちに希望と幸せを与え続けたのである。教友の一人ジャリール・ブン・アブドッラー（彼にアッラーのご満悦あれ）は伝える。

－「私は預言者ムハンマドﷺの微笑んだ表情しか見たことがありません。」（ムスリムの伝承より）

－「あなたの（信仰上の）兄弟に対する微笑みは、サダカです。」（ティルミズィーの伝承より）

イスラームは人類全体を信仰上の兄弟として一つに纏め上げる。

喜びと微笑みは明日の希望となり、より良い未来となるのである。

イ イスラームの礼拝の際の身の清め方（ウドゥー）と日本の伝統的な身の清め方イスラームの身の清め方は以下の通りである。

- 1－ビスミッラーと言う（神の御名を唱える）。
- 2－両手を洗う。
- 3－口をゆすぐ（少量の水を口に含み、上下左右に動かして口内を清潔にする。）
- 4－鼻を洗う（少量の水を鼻に入れる。）
- 5－顔全体を洗う。
- 6－両肘までを水で洗う。
- 7－額、髪の毛を手のひらで拭う。
- 8－両耳を洗う。
- 9－両足は、踝や踵部分までも洗う。

日本の伝統的な身の清め方

- 1－両手を洗う。
- 2－口をゆすぐ。

以上、教育、道徳、学問、労働におけるイスラームの教えとその原則の素晴らしさが明らかになった。

素晴らしき道徳精神、高貴な人間関係、精神の浄化と清浄化、学問と知識、そして労働の推進、技術の習得の薦めがイスラーム共同体全体の覚醒、発展へと繋がり、その地に住む人々の高度な文明化へと導かれるのである。



1 筆者は日本の国教である神道の作法を指摘していると思われる。

イスラームと諸問題への解決方法

イスラームは創造主による堅固なプログラムによって、各人の人生を真っ直ぐなものとし、過去、現代を問わずすべての分野で模範的解答例を用意してきた。以下はその諸例である。

1 一奴隷の問題

イスラームが勃興したとき、古代アラビア社会を含む多くの社会では奴隷貿易が盛んに行われていた。そしてイスラームは、この問題に対して、高度な英知に基づく解決方法を提示した。しかし、直接に奴隷貿易を禁じた訳ではない。なぜならその当時、奴隷貿易は、多くの人々にとっての主な収入源であり、奴隷は大きな資本だったからである。奴隷を金銭によって売買することが可能になることによって、奴隷の数は増大し、それにつれて、その所有者の資本も増大したのである。そしてイスラームは決してそのような当時の経済活動、人々の資本を停止、禁止するために現れたのではなかった。しかしイスラームは、当時蔓延していたこのような現象、悪習に対して、多大なる意欲と用心深さ、そして高度な英知をもって解決に当たった。その英知とは次の通りである。

ア イスラームにおいては、信仰者がムスリム奴隷を一人解放することによって、信仰者の犯したさまざまな罪が包み隠される。すなわち、さまざまな罪を犯した信仰者が、その可能性、条件を有するならば、所有している奴隷を解放することによって、もし奴隷を所有していなければ、奴隷を購入し、購入した奴隷を解放することによって、悔悟が成立する。これはイスラームが信仰者に対して命ずる罪に対する悔悟の方法である。

イ イスラームは奴隷の解放をはっきりと推奨している。

預言者ムハンマドﷺは言われる。

- 「奴隷を解放した者は誰であれ、必ずやアッラーが火獄の苦しみから、すべての身体の部位を解放して下さる。」（ブハーリーの伝承より）

至高のアッラーは、審判の日には彼を火獄の恐怖から救って下さり、楽園に入れられる。そして楽園の快適さは、尽きることなく、永遠である。

そしてイスラームの教えによって育った預言者ムハンマドﷺの教友たちも至高のアッラーの報奨を求めて、所有していた奴隷たちを解放している。むしろ教友たちは、奴隷を売買していた、と言ったほうが正しいかも知れない。それは奴隷たちを庇護し、解放するためであり、至高のアッラーのご満悦を求めての行為だったのである。これこそが、イスラームの偉大なる英知による解決方法である。

2－自殺の問題

イスラームでは自殺の原因解明によって、この問題の解決を図る。

ア 自責の念と失敗の思い

イスラームでは絶望という思いを抱くことなく、その反対に希望の扉を開くことによって、これらの問題の解決を図る。絶望という心理状況は、（神性帯びた唯一の創造者を信じる）信仰者の心理状況として相応しくない。

言え、「己自身に仇して度を越したわがしもべたちよ、アッラーのご慈悲に絶望してはならない。まことに、アッラーは罪をそっくり赦し給う。まことに、かれこそはよく赦し給う慈悲深いお方」。（集団：53）

－「アッラーの慈悲心に絶望してはならない。まことにアッラーの慈悲心に絶望するのは不信人の民だけである。」（ユースフ：87）

このようにイスラームでは、至高のアッラーの信仰者に対する慈悲深さ、信仰者の誤りに対するアッラーの赦しに対して絶望すべきでないことを明示している。そしてかれに悔悟し、かれにお縋りすれば、至高のアッラーが信仰者を見捨てることはないのである。常に、至高のアッラーが信仰者を支持し、成功に導いてくれることを信じて、そのご満悦を得るために奮闘努力すべきなのである。

そしてイスラームでは、現世での人間の生活はすべて善行、成功への努力、試み、行動であり、それは審判の日における善行、誠実さの度合いにかかっていることが明確にされている。そしてこれは至高のアッラーのご満悦を得るための誠実な意志に依っている。

つまり、至高のアッラーへの心からの純粹で誠実な意志が信仰者にある限り、たとえ信仰者の努力、試みが成功裏に終わらなかったとしても、至高のアッラーの慈悲によって、信仰者の努力、試みは審判の日に、善行の秤にかけられ、報われるのである。それはひとえに信仰者の誠実な意志のためである。

イ 現世の生活に意義を見出せないこと

イスラームはこのような原因に対して、私たちに死後の世界（来世）の存在、そこでの勝利を思い起こさせることによって、この世界での私たちの目的を明確にする。そしてこのイスラームの解決方法によって、信仰者の信仰心、その誠実な行為、高い道德意識、高貴な人間関係、短い現世での善き行為は、永遠の来世での大勝利に繋がるのである。

ウ 親しい人間関係が損なわれることによる精神的問題、現実世界よりもネット空間や非現実世界への依存

イスラームは、儚い現世の生活ではなく、信仰者に約束された永遠の来世での生活について言及することによって、このような精神的問題や理想世界のみでの追求といった問題の解決に当たる。そして永遠の来世とは、至高のアッラーによる、信仰者の信仰心、崇拜行為、服従心に対する報奨なのである。至高のアッラーは仰せられる。

－「まことに信仰し、善行をなした者、かれらには（歓迎の）宿として極楽の園がある。

そこに永遠に。かれらはそこから移ることを望まない。」
（洞窟：107, 108）

至高のアッラーに服従することによって、人間はいかなる理由によっても自らを殺めることはないのである。

－「また、おまえたち自身を殺してはならない。まことにアッラーはおまえたちに慈悲深いお方。」（女性：29）

－「そして自分たちの手をもって破滅に投じてはならない。」
（雌牛：195）

人間は至高のアッラーが約束された永遠の来世に思いを馳せることによって、この短い現世での悩み、苦しみを耐え忍ぶことができる。永遠の来世には、私たちの求めるもの、希望するものすべてが私たちを待っているのである。

3 飲酒と麻薬の問題とその危険性

イスラームは、至高のアッラーから与えられた恵みである人間の理性の重要性を説くことによって、この問題の解決を試みる。そしてイスラームは、理性を損なわせる飲酒や麻薬が原因で、多くの悪しき問題が生じるからである。人間の理性は、人間を他のありとあらゆる被造物から区別するものであり、理性がなければ、人間も動物や獣類などとそう変わることはなく、自らの行為に責任を持つことはできず、殺人、窃盗、姦通、強姦、侵略といったより危険な罪や悪行を行ないかねないからである。

- 「飲酒を避けよ、それは全ての悪の根源である。」 (イブン・マージャの伝承より)

- 「ワイン、そしてそれを扱う者、売買する者、抽出する者、させる者、運ぶ者、運ばせる者はアッラーに呪われた者である。」 (イブン・ダーウードの伝承より)

- 「酩酊作用のある飲料はすべてハラームである。」 (ブハーリーの伝承より)

そしてここから導き出される裁定は、飲む量が少量であれ多量であれ、飲酒や麻薬は私たちが依存症状に導き、もはやそれなしでの生活が考えられなくなるのである。

さらに、飲酒は人間を害する様々な種類の病気の原因ともなる。

イスラームは、人間の精神の破壊や理性の腐敗、悪が社会にはびこることを完全に拒否する。

- 「かれらに良識を勧め、悪行を禁じ、」 (高壁：157)

4 失業の問題

イスラームは、この問題に対して、人間に与えられたすべての可能性、労働や努力、挑戦することの意義に言及することによって解決を図る。至高のアッラーへの全幅の信頼し、かれに助けを求め、お祈りすることによって、事態が好転し祝福が得られるのである。

- 「それゆえアッラーにこそ一任する者たちは一任せよ。」
(イブラーヒーム：12)

イスラームでは、アッラーに一任したあとは、自らを信頼するよう説いている。そしてアッラー以外の何者にもひざまづいたり、頼ったりしてはならない。

アナス・ブン・マーリク（アッラーのご満悦がありますように）は言われた。

援助者の男が預言者の許に援助を求めてきた。預言者は言われた。

「あなたの家には何もありませんか？」

「身につける厚手の服と床に敷く服、水を飲む器があります。」

「それらを持って来なさい。」

男が持って来ると、預言者は手に取られ、周囲の者たちに言われた。

「誰かこれらを購入する者はいないか？」

「1ディルハムで私が買おう。」ある男が言った。

「2倍、3倍で購入する者はいないか？」

別の男がやって来て、2ディルハムで買って行った。そこで預言者は受け取った2ディルハムを援助者に与え、かれに言われた。

「1ディルハムで食料を買い、家族に与えなさい。もう1ディルハムで斧を買い、持って来なさい。」そして預言者は戻って来た男の手を引いて言われた。

「行って、薪を集めて売ちなさい。そして15日は戻って来ないように。」

そこで男はその場を離れ、薪を集め、それを売り始めた。いくらのお金が集まると男はそのお金で服や食料を買った。預言者は言われた。

「このようにするほうが、（物乞いするよりも）あなたにとって良い。」
（アブー・ダーウードの伝承より）

この真正ハディースは、預言者ムハンマドﷺの模範的かつ実践的な方法による解決方法を示している。それはこの男を再び他人に頼ることのない独立した商人へと変化させたのである。預言者ムハンマドﷺは、彼の経済的状況や身体、精神的状況にとって合法で適切な方法を選択された。もうこの男は社会の負担になることはなく、むしろ人々が彼から学ぶことのできる有益な実践例なのである。

－「ローブを持って行き、薪の束を背負い、それを売って生活の糧にする方が、他人に無心するより自らの自尊心にとって良い。」（ブハーリーの伝承より）

したがって、アッラーに頼り、アッラーに縋って忍耐し、シンプルに労働をすることで、至高のアッラーが祝福され、良い糧をお与えになるのである。また至高のアッラーはその愛情ゆえに彼を報われ、満足し、死後の審判の日のあとに、彼を楽園に入れられるのである。

あるとき、預言者ムハンマドﷺはある男と握手をされ、日頃の手仕事で男の手が固いの気付いて、言われた。

－「これはアッラーとその使徒たちが愛される手だ。」また預言者ムハンマドﷺは言われた。

－「正直で信用のおける商人は、預言者たちと正直者たちと殉教者たちと共にいる。」（ティルミズィーの伝承より）

私たちが至高のアッラーに縋ること、至高のアッラーが人間に付与されたさまざまな可能性を利用することによって労働、努力することはイスラーム

が正に私たちに求めるものであり、私たちの精神的支え、感情的支えになるものである。そうでなければ私たちは、失業したであろう。

さらにイスラームでは繁栄と快適さのために、社会の異なるさまざまな階級の労働による相互協力、相互連帯、相互扶助が推奨されている。

5 貧困の問題

以下のことを通してイスラームはこの問題の解決を図る。

イスラームは社会的連帯のために貧者、やもめ、孤児、困窮者へのサダカの支払いを推奨する。なぜなら、至高のアッラーがサダカには多くの報奨による報いがあると明示されているからである。

- 「まことに（法定）喜捨は、貧者たち、困窮者たち、それを行う者たち、心が傾いた者たちのため、また奴隷たちと負債者たち、そしてアッラーの道において、また旅路にある者のみに。アッラーからの義務として。アッラーはよく知り給う英明なるお方。」（悔悟：60）

- 「アッラーの道において自分の財産を費やし、費やした後続けて恩を着せたり、傷つけたりしない者たち、かれらにはかれらの主の許にかれらの報償がある。そしてかれらには恐怖はなく、かれらが悲しむことはない。」（雌牛：262）

- 「私と孤児を世話する者は、樂園に辿り着くだろう。こう言って預言者は人差し指と中指を示された。（つまり共に、の意）」（ティルミズィーの伝承より）

- 預言者ムハンマドﷺは言われた。

「すべてのムスリムにサダカが定められた。」

すると、こう尋ねられた。「もし手元に何もなかったらどうでしょうか？」預言者は言われた。

「身体を駆使して働き、利益を生み出し、それをサダカとしなさい。」
すると、こう尋ねられた。「それもできない者は？」預言者は言われた。

「助けを必要としている者の手助けをしなさい。」

「それもできない者は？」預言者は言われた。

「善行を行うことが、その者にとって良い。」

「それもできない者は？」

「悪事から遠ざかりなさい。それがサダカである。」（ブハーリーの伝承より）

イ イスラームでは裕福者に貧者や困窮者に対して、ザカートの義務を課している。そしてザカートを行った者には、審判の日に至高のアッラーから大きな報奨があることが明示されている。イスラームでは、至高のアッラーこそが真の所有者であり、すべての事物の所有者であり、供給者である。したがって、至高のアッラーのみ所有の問題に対処する権利をもち、その分配方法もかれのみが権利をもつのである。そしてザカートはかれの完全なる英知と意図によるものである。

イスラームは、裕福者の財産（金、銀、貨幣、心づけ、家畜、種子類、果物、資源など）が一定の額に達した場合、またある期間、個人や社会に対して有益な活動を行った資本家すべてが、貧者、惨めな者、困窮者に一定額を支払う必要がある。そしてザカートによって集められた資金は、その必要に応じてザカートに特化した機関や協会等の組織によって貧者、困窮者に分配される。そして無事にかれらの手元に届けられ、有益な用途に使用される。

そしてイスラームが推奨するこのようなシステムが、その専門ごとに特化した側から適用されれば、私たちはそこに積極的な結果を見ることになるだろうし、ひいては貧困問題の縮小、さらには根本的な解決に至ることになるだろう。そしてこれは、カリフであったオマル・ブン・アブドルアジーズの治世に実際行われていたことで、ときが経つにつれ、システムは強化され、社会に資本は溢れ、ザカートを与えるべき貧者、困窮者が見当たらなかつたほどであった。そこで残りの財産は結婚を望むすべての若者に与えられたのであった。（これもまたイスラームにおける結婚の重要性を示している。）

6 姦通（非合法的男女の関係）の問題

姦通は、個人と社会を大きな腐敗へと導くものであり、血統の混在、損失、殺人へと発展する敵を生むことにもつながる。そして姦通が社会に蔓延すれば、社会の独立は達成されない。

イスラームの解決方法は以下の通りである。

ア 合法的な結婚

イスラームでは、至高のアッラーが合法とされた男女の正しい関係（結婚資金が支払われ、権利と義務が男女両者に生じる状態）による善き家族モデルの形成を積極的に推奨することによって、この問題の解決を図る。そして健全な次世代が育つことによって、社会の独立は保持されるのである。

預言者ムハンマドﷺの伝承でも、合法的婚姻と男女の合法的関係は推奨されている。

-預言者モハンマドﷺは言われた。

「性行為はサダカである。」教友の一人は言った。

「アッラーの使徒よ、性欲を満たすことがサダカなのですか？」

「性行為が合法的関係でなかったら、罪に値するのと同様に、性行為が合法的関係であったなら、報奨に値するのだ。」（ムスリムの伝承より）

ここでも預言者ムハンマドﷺは理性的で論理的な対話によって、回答を与えている。そしてその意義を説明し、承認し、補足するのである。

イ イスラームでは姦通を罪とし、姦通へと導くいかなる方法にも近づかないよう警告している。

-「また姦通に近づいてはならない。まことにそれは醜行であり、そのなんと道として悪いことか。」（夜行：32）

ウ イスラームではこの悪しき罪に陥った者、そしてそれを社会に広めようとする者に対する懲罰の大きさを強調している。

エ 同時にイスラームでは理性的、論理的対話を通して行われる高き英知によって、この問題の解決を図る。それは預言者ムハンマドﷺの（姦通から離れることの出来ない）一人の若者との対話にも明確に表れている。

1人の若者が預言者ムハンマドﷺの許に来て言った。

「アッラーの預言者よ、姦淫は許されますか？」 人々は彼に近づき、彼を非難して言った。

「黙りなさい。黙りなさい。」

すると、預言者ムハンマドﷺは言われた。

「こちらに来なさい。」

かれが近くに来て座ると、預言者ムハンマドﷺは言われた。「あなたのお母さんを想っても、なおそれを欲するのですか？」若者は言った。

「いいえ、決して。私をあなたの犠牲にして下さい。」 「他の人々も同じです。あなたの娘さんを想ったらどうですか？」

「いいえ、決して。私をあなたの犠牲にして下さい。」

「他の人々も同じ想いです。それでは、あなたのお姉さんを想ったらどうですか？」

「いいえ、決して。私をあなたの犠牲にして下さい。」

「他の人々も同じ想いです。それでは、あなたの祖父のことを想ったらどうですか？」

「いいえ、決して。私をあなたの犠牲にして下さい。」

「他の人々も同じ想いです。それでは、あなたの祖母のことを想ったらどうですか？」

「いいえ、決して。私をあなたの犠牲にして下さい。」

そして預言者ムハンマドﷺは彼に手をかけて言われた。

「アッラーが彼の罪を赦し、その心を清浄にし、彼を救い出して下さいますように。」その後、その若者が誘惑に駆られることはなかった。
(イマーム・アフマドの伝承より)

そして預言者ムハンマドﷺは、このような若者に対して英知をもって柔和で親切で寛大な態度で解決を図ったのである。それは理性的で論理的な対話と合理的議論によってなされ、イスラームが齎した個人と社会を維持し、社会に善と正義と徳によって高き上げる高貴な品性と人間関係と強化する。

7 婚姻率の減少による出生率の減少とそれに起因する労働力の欠如イスラームはこの問題に対して次のような解決を試みる。

ア イスラームは、人間の性欲を（否定せず）正しい方法で扱うことによって、この大地において、しっかりした人間の土台を作り上げる。そして正しい方法とは、至高のアッラーが許可された合法的な結婚を通して行われる。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「若者たちよ、おまえたちのなかで余裕のある者は結婚するがよい。」
(ブハーリーの伝承より)

- 「婚姻し、出産し、子孫を残しなさい。」 (バイハキーの伝承より)

イ イスラームは、若者同士の結婚における諸々の手続きを簡略化し、社会のさまざまな階層において婚資金を簡略化することを推奨する。このことは、高貴なイスラームの知恵、教え、原則に基づくムスリムの家庭という基盤をまず確立させ、ひいては個々人の安定、そして社会の独立と繁栄を齎すのである。預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「高貴な女性は大きな恵みであり、彼女との結婚は金銭面での援助にもなるだろう。」 (アハマドの伝承より)

ウ イスラームでは、すべての若者の結婚を推奨する。その理由は次のように説明される。もしかしたら多くの若者が十分な婚資金を用意できないかもしれない。それはかれらにはどうしようもないこと（たとえば、失業率の増加、収入額の減少、生活費の増加など政治・経済的理由によって）であり、イスラームでは一種の解決策として、以下のようなことを推奨する。もし品性に優れ、

イスラームの教えに適った若者が結婚を希望したならば、たとえ借金を背負っていたとしても、結婚させることを推奨する。イスラームは、それが本人の状態、品性にとって有益な限り、本人の意志以外のことに属する結婚における障害を黙認することを薦める。そして預言者ムハンマドﷺは、少女たちの後見人に対して次のように言われている。

- 「もしかれの宗教、品性においてイスラームに適った者があなたの許に来たならば、結婚させなさい。さもなければ、大地にフィトナ（苦難や試練）が広がり、腐敗が進むであろう。」（ティルミズィーの伝承より）

● また少女たちの問題に関して、預言者ムハンマドﷺは次のように言われた。

- 「現世は悦びである。しかし、最も良い悦びは誠実な女性である。」（ムスリムの伝承より）

- 「女性と婚姻するときは、彼女の遺産、彼女の系統（出自）、彼女の容姿ではなく彼女の宗教によって選びなさい。」（ブハーリーの伝承より）

よく知られているように、女性にとって、経済力、血統、容姿の三つは、彼女たちの能力とは直接に関係がないのであり、どれか一つを選択することはできない。

そこでイスラームでは、結婚する女性の選択はそれら三つの事柄によってではなく、彼女の宗教によって選ぶことを教えているのである。つまり預言者ムハンマドﷺは、イスラームの教えを守り実践する女性をより高く評価している。なぜなら、品性を正し、高貴な道德心をもつことは、女性自らの手で変更、更生することが可能だからである。

イスラームでは、男女の若者たちを高貴な正しき道德心へと導き、善と功德を社会に広めることによって、この問題に対して典型的な解決策を提示する。

8 家庭の崩壊

この問題に対してイスラームは多くの解決方法を提示する。

ア イスラームは夫と妻の間の協定を説き、口論、言い争い、離婚の機会を減らすように努めている。そして家族の存続を助長し、それによって次世代の子供たちとその教育を推進する。

イ イスラームは両親が負うべき責任の大きさを明確に説いている。そして子供の保護、養育、子供を平等に扱うこと、子供の将来における責任を両親に課しているのである。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「あなたたちすべては羊飼いであり、その羊の責任者である。男は家族の責任者であり、女は子供の責任者である。お互いに責任をもって行動しなさい。」 (ブハーリーとムスリムの伝承より)

- 「アッラーを畏れ、あなたたちの子供に対して公正に接しなさい。」 (ブハーリーの伝承より)

- 「子供たちに寛大に接し、良き品性を教えなさい。」 (イブン・マージヤの伝承より)

- 「子供の両親に対する権利は、読み書きを教わることである。」 (バイハキーの伝承より)

したがって、夫もしくは父親は、その家の羊飼いであり、同様に妻もしくは母親も、その家の羊飼いなのである。

ウ イスラームでは子供は両親に対して、品行方正に接するように説き、かれらに対してよく接することは、大きな美德であると教えている。

- 「そしておまえの主は定め給うた、かれのほかには仕えてはならない、と。そして、両親には心尽くしを。もしかれらの片方が両方がおまえの許で高齢に達したとしても、かれらには「ふっ (忌々しい) 」

と言ってはならず、かれらに声を荒げてはならない。むしろ、かれらには優しい言い回しで話せ。そして、かれらには慈愛から謙譲の翼を下げ、言え、

- 「わが主よ、ふたりにご慈悲を垂れ給え、かれらが幼い私を育ててくれましたように。」 (夜行：23, 24)

エ イスラームは兄弟同士でもお互い健全な心、精神で接すること、また双方の間の憎悪や嫉妬を取り除くことを説いている。また聖クルアーンの中でも預言者ユースフ（アッラーのご満悦あれ）と彼の兄弟についての長編物語の中に、兄弟間の問題を垣間見ることができる。

一寸の疑いなく、私たちは、この長編物語の中に見出される有益な情報、教訓は、イスラームが父親の子供に対する教育、養育の責任を課していることから生じるのだと理解できるのである。

イスラームが正した、男と妻の間の良き関係性、もしくは家族間の関係性、父親と子供たち、子供たち同士の関係性によって、崩壊する心配のない絆の強い家族を構成することができるのである。

9 離婚の問題

この問題に対するイスラームの解決方法は以下の通りである。

ア イスラームは、男性とかれの問題に対して十の善き事柄とその権利について説いている。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「あなたの中で最も良い者は、その家族にとって最も良い者であり、私は私の家族にとって最も良い者である。」（ティルミズィーの伝承より）

イ イスラームは女性と彼女の問題に対して十の善き事柄とその権利について説いている。

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「もし女性が一日五回の礼拝を行い、斎戒月の斎戒を行い、貞節を守り、夫に従うのなら、好きな門から楽園に入りなさい、と言われるだろう。」（アルバーニーが真正としたイブン・ハッバーンの伝承より）

ウ イスラームは、妻への虐待を禁じるだけでなく、夫はその妻を庇護し、妻は夫に従うよう説いている。

至高のアッラーは仰せられる。

- 「そして彼女らとは良識に沿って暮らせ。そしてたとえおまえたちが彼女らを嫌ったとしても。おまえたちはなにかを嫌うかもしれないが、アッラーはそこに多くの良いことをなし給うであろう。」 (女性：19)

すなわち、人間は目に見えないこと（未来のことなど）は分からず、人間が忌み嫌うものの中にも善が含まれている可能性もある、ということである。

エ イスラームではお互いの仲を正すよう説いている。そして特に男と妻の間柄を修復することは、神のご満悦を得て、審判の日に、報奨が準備され、最も神に近づける最も良き行いの一つであることを明確にしている。

- 「またおまえたちが（夫婦）両者の間の破局を恐れたなら、かれ（夫）の家族から調停者一人と彼女（妻）の家族から調停者一人を派遣せよ。双方が和解を望めば、アッラーは両者（双方）の間を一致させ給う。まことにアッラーはよく知り通曉し給うお方であらせられた。」 (女性：35)

- 「もし女が彼女の主人（夫）からの虐待や忌避を恐れたなら、両者の間で和解で仲直りすることは両者の罪にはならない。和解はより良い。だが、人には強欲がつきものである。もし、おまえたちが最善を尽くし、恐れ身を守るならば、アッラーはおまえたちのすることに通曉し給うお方であらせられた。」 (女性：128)

- 「アッラーを恐れ身を守り、おまえたちの間を正し、アッラーとかれの使徒に従え。もしおまえたちが信仰者であるならば。」 (戦利品：1) 預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「齋戒、礼拝、喜捨よりもよい行いをお前たちに教えなかったか？それはお互いの仲を修復することである。」 (ティルミズィーの伝承より)

イスラームでは、夫と妻の間を改善する規則の構築によって離婚、言い争い、口論を減らすよう説いているのである。

10 人種差別の問題

イスラームは次のような方法でこの問題の解決に努めている。

ア イスラームは異なる人種、階級を超えてすべての人間が平等であることを基調とし強調している。したがって、人間同士の間には優劣はなく、どち

らが上でどちらが下ということはない。しかし、至高のアッラーを畏れ信仰する者、善行をなし品性に優れた者は別である。至高のアッラーは仰せられる。

－「人々よ、われらはおまえたちを男性と女性から創り、おまえたちを種族や部族となした。おまえたちが互いに知り合うためである。まことに、アッラーの御許でおまえたちのうち最も高貴な者は最も畏れ身を守る者である。まことに、アッラーはよく知り通曉し給うお方。」（部屋：13）

預言者ムハンマド^ﷺは言われた。

－「人々よ、あなたたちの主は一人であり、あなたたちの父親（人類の始祖アダム）も一人である。アラブ人が非アラブ人より、非アラブ人がアラブ人よりも優れているということはない。黒人が白人より、白人が黒人より優れていることもない。しかし（アッラーへの）畏怖の念だけは別である。アッラーの許で最も高貴な者は最も畏れ身を守る者である。それを伝えたかな？－いいえ、アッラーの使徒よ、それならば今いる者は、今ここにいない者に伝えなさい。」（アハマドの伝承より）

－「アッラーはあなたたちの身体、外見を見ることはない。心の内を見るのだ。」（ムスリムの伝承より）

イ イスラームの崇拝行為における原則の中に、私たちは世界中の異なる人々との間にも適応される平等の原則を見出すことができるのである。

サラート（礼拝）：礼拝においてすべてのムスリムは平等に並べ、その列は後続においても同様の形で続く。礼拝中は、一国の首相が一般庶民と、富者と貧者が、唯一のイマーム（礼拝先導者）の動きに沿って、最後まで隣り合わせに礼拝を捧げるのである。

ハッジ（巡礼）：巡礼中は、人種、社会的地位の異なる世界中のムスリム（物理的、経済的条件が適った者たちのみ）が一堂に会する。そして皆が共通の方法で巡礼を行うことによって、人種の違いを乗り越えて共通の理念の下に団結することができるのである。

11 暴力とテロの問題

この問題に対するイスラームの解決方法は、以下の通りである。

ア 高貴な品性を保ちムスリム、非ムスリムに関係なく良き人間関係を築くこと至高のアッラーは仰せられる。

- 「また善きことと悪しきことは同じではない。より良いものによって（悪を）追い払え。すると、おまえと彼の中に敵意がある者も、親密な後見のようになる。」（解説された：34）

預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「アッラーは寛大であり、寛容を好まれる。そして不当な暴力を行使しない者には寛容さを与えられる。」（ムスリムの伝承より）

- 「暴力を灰めかした者は、たとえ兄弟であっても、天使に呪われるだろう。」（ムスリムの伝承より）

- 「寛大であることは常に好まれ、それが失われれば蔑まれる。」（ムスリムの伝承より）

イ イスラームでは不当に自分を殺すこと、激しい血の流血を禁じている。至高のアッラーは仰せられる。

- 「それ即ち、人の命のゆえにでも、あるいは地上での害悪のせいでもなく、人一人を殺した者は、人々すべてを殺したようなものであり、人一人を生かした者は人々すべてを生かしたようなものであると。」（食卓：32）

ウ イスラームでは、至高のアッラーへの宣教は英知、善き説教によって行うべきことを明らかにしている。それは粗野な態度とは程遠く、暴力、テロに導くようなものとはまったく関係のないものである。

至高のアッラーは仰せられる。

- 「おまえの主の道へと英知と良い訓告をもって呼び招け。そして、かれらとはより良いものをもって議論せよ。まことにおまえの主、かれこそかれの道から迷った者についてよりよく知り給い、かれこそは導かれた者たちについてもよりよく知り給う。」（蜜蜂：125）

エ イスラームではいかなる人に対しても特定の宗教、信仰を強制することを明確に禁じている。

至高のアッラーは仰せられる。

- 「宗教に強制はない。」（雌牛：256）

- 「そして言え、「おまえの主からの真理である」。そして、望む者には信じさせ、望む者には信仰を拒ませよ。」（洞窟：29）

イスラームにおいて誤った信条を正すことができるのは、アッラーのみである。

そしてイスラームにおいてこの問題の解決方法は、イスラームの高貴な教えと導きを通して明示されているのである。

12 インフレの問題

インフレは物価が（極端に）上昇する経済上の問題であり、主に次の二つの理由によって齎される。

ア サービス、日用品に対する需要の拡大、供給が不足することによって、供給が需要に追い付かなることによって、サービス価格が、本来あるべき価値に対して著しく高騰する。そして需要に対する供給が不足すればするほど、価格は高騰し、一般市民はそれを購入することができず、利用することもままならなくなる。そしてそれを手に入れることができるのは、一部の富裕層のみ、という状況になってしまうのである。

このようなインフレは、市場開拓による独占力、またはサービス業界や商品の供給量をコントロールしようとするアクション、利益のさらなる拡大が目的の商品の供給量減退、などが原因で引き起こされる。

イスラームは、このような独占を禁止している。預言者ムハンマドﷺは言われた。

- 「独占する者（貯蓄する者）は、誤っている。」（ムスリムの伝承より）

イスラームの規範では、商品の価格は、それ相応に定まっているものでなければならず、また正当な利益を齎すものでなければならない。

イ 銀行をはじめとする金融業界の金銭の貸付に付随する利子によって引き起こされる。利子によって、サービス業界の負担は増大する。また利子によ

って、元の貸付よりも多くの金額が必要とされることになり、すなわち商品量の増大、サービスの過多、そして最終的には消費者を圧迫することに繋がることになり、社会全体もしくは一部の個人の負担となって現れるのである。

このような貸し付けた利子によって齎される利潤は、借金による利子と呼ばれ、イスラームでは禁止されている。

- 「しかしアッラーは商売を許し、利子を禁じ給うた。」（雌牛：275）
預言者ムハンマド^ﷺは言われた。

- 「アッラーは利子を貪る者、利子を支払う者、それを記録する者、それを証言する者を呪われる。それはすべて同等の行為である。」（ムスリムの伝承より）

至高のアッラーは利子を禁じられ、それを強く否定された。

そしてイスラームでは、たとえそれが多かろうが、少なかろうが、貸付によるあらゆる利子を禁じられ、利子を無効とされた。しかし、誠実な意図による貸付自体は許されており、たとえば、経済的利益を求めるものではなく、アッラーのご満悦を得るために行われる貸し付けなどは、それに当たる。それは社会と個人の間の相互協力、相互扶助の精神を広めるものである。

またイスラームは、市場の独占、金銭的利益が引き起こすインフレ問題に対して、別の解決策も用意している。それはイスラームの義務行為の一つであるザカート（浄財）である。ザカートは富裕層に間接的にさまざまなプロジェクトへの投資を促し、社会における経済活動を活性化し、資本をうまく回すことにつながるのである。

以上見てきたこれらの解決策は、さまざまな問題に対してイスラームが提供する方法である。

そしてこれらは、イスラームによって齎された場所、時代を超えて人間の生活を真っ直ぐなものにする万有の主によるプログラムであると言えるだろう。



日本における覚醒と発展、進展と文明化のあとに 待っているもの

ここで私が意図しているのは日本の人々であり、日本という一国家の基本的、主要構成要素である個々人である。なぜなら、個々人の存在なくしてはいかなる集団も国家も成り立たないからである。ここでの問いは次のようなものである。

日本の個々人に欠けているもの、必要なものは何か。そして誰も驚嘆するような努力と、その努力による成功という結果を残し、その報い、報奨をしかるべき状態に保持しておくものは何か？

まず始めに、次の点を確認しておきたい。すでに日本の人々は、近代において最高の模範例を私たちに示してくれた。それは常に前進と発展、繁栄と文明化のために一心に努力する日本の人々の姿であり、荒廃した大地を修復し、各人がお互いに協力することによって行われる集団行動であり、規律と古き良き時代から連綿と受け継がれてきた伝統への執着心であった。それは日本の発展に大きく貢献した。しかし、そのような個々人の努力のあとに、待っていたものは一体何だったのだろうか。個々人の生活は、国家の成長と発展の犠牲となってしまうのだろうか？それとも別のやり方での評価、敬意があるのだろうか？答：もちろん存在する。しかし、それでも次のような問いは、残るだろう。

一体どのように日本の人々は年を重ね、人生を終えたのだろうか？

評価と敬意というものは、各人の人生においてどれだけ多くのものを獲得したかに依る、と言う人があるかも知れない。しかし実際は、このようなやり方での評価、敬意は不十分で、常に努力を続け、常に準備態勢にあった人にとっての真の評価にはなりうるものではない、と言えるだろう。なぜなら、いくら努力を重ねて、多くのものを獲得したとしても、その人生を終えれば、彼の評価も途絶えてしまうことになるからである。同じような理由で正当な評価、敬意を与えられなかった者のなんと多いことだろうか。特に世界第二次世界大戦後にその荒廃した大地の修復のために、自らを犠牲にして努力してきた者た

ちは尚更だし、もし日本がその後の進展において、豊かな先進国として存続できないならば、かれらの人生におけるその真摯な努力、犠牲は、かれらに何の利益も齎さなかったことになる。または、日常の生活を維持するのもやっとなような収入の少なさに、あるいはその豊かさから孤立した土地に住む者たち、洪水、火山、地震といった自然災害に見舞われた人々に目を向けるならば、かれらは何も得ることがなかったことになる。したがって真の敬意とは、人間の死後も継続するものでなければならない。そしてどんなに年を重ね、その生活が継続しようとも、常に努力し、それを継続する準備があった人たちと同様、その真摯な努力に対する敬意も、同様に継続されるものでなければならない。そして純粋な意志による善き行いに対しても、敬意は払われるべきである。これこそが英知であり、徳というものだろう。

これこそが日本の方々一人ひとりだけでなく、世界中の人々に対してイスラームが提示できるものである。それには信仰告白、唯一の創造主アッラーの承認と唯一の神性への信仰心、また他の神をアッラーに配することなく、その教えへの服従、この短い現世での崇拝行為がその条件となる。そして、信仰者には現世の生活の終わりを迎えてから、終わることのない永遠の樂園が与えられた後で、至高のアッラーからの敬意、栄光が与えられることになる。これこそが信仰者に対する至高のアッラーの誓約なのである。

前述したイスラームの概念は、そして至高のアッラーが創造された人間の天性と合致する純正なる信条への宣教こそは、人間の魂を高め、このような人間の創造と創造主との関係について考える者たち、またイスラームが齎した高貴な教えやその原則—それに執着することによって成長、発展、文明化の要因となる—について考える者たちに対して、また過去、現代が抱えるさまざまな諸問題に対して模範的かつ根本的な解決方法を提示するのである。

そして、イスラームに、またその教えに従うことによって真の栄光が齎される。

したがって私がここで述べたいことは、この一時的な儂い人生において日本人（もしくは他の人種であっても）の一人ひとりに欠けているものは、まさに各人の生活における行為実践に対する形ある結果であり、その努力、成功に対する王冠である。そしてそれを与えることができる唯一の宗教がイスラーム

イスラームと日本、過去と現在の諸問題におけるイスラームの解決方法

ムなのである。すなわち、唯一の創造主である至高のアッラーを信仰し、服従することである。そしてその教え、命令に従うことによって、私たちが現世の生活において行った努力は、正当に評価され、報奨が与えられることになる。それは死後に永続する楽園においてであり、それこそが王冠であり、真に果てることのない栄光なのである。



何故イスラームなのか

●イスラームこそ至高のアッラーの宗教である。つまりイスラームとは降伏という意味で、崇高かつ至高のアッラーへの思い、その命令に従うことで、理性、心、精神、身体のすべての側面において安らぎの気持ちで充ちていることを言う。

イスラームは、至高のアッラーが創造され付与された天性の宗教であり、タウヒードの宗教である。タウヒードとは、崇高かつ至高の創造主、唯一の存在であるアッラーを、そしてその唯一なる神性を信仰することを、また人間の理性が考えるすべての観念、または懐疑、要求へ、まず第一に与えられる模範的かつ論理的回答である。これこそは健全かつ高度な理性が要求する宗教である。

●イスラームはすべての預言者、使徒を高き上げ、かれらを誹謗中傷しない唯一の宗教である。しかし近代における他の宗教に目を向けてみるならば、預言者の何人かは信仰しても、党派主義や血統主義に基づいて他の預言者を曲解する宗教がほとんどである。しかしイスラームにおいては、そのような誹謗中傷は一切なく、信者には至高のアッラーのすべての預言者、使徒（いかなる区別もなく）への信仰が義務付けられている。そしてかれらの力、教えを信仰し、最後の預言者であり、使徒である預言者ムハンマドﷺを信仰するのがイスラームという宗教なのである。

●イスラームによって齎された啓典（聖クルアーン）は、崇高かつ至高のアッラーに拠る現存する唯一の啓典であり、アッラーによっていかなる損失や歪曲からも保護されている。それは預言者ムハンマドﷺのあとには預言者、使徒も遣わされることはなく、聖クルアーンのあとに、どのような啓典も下されることはないからである。したがって聖クルアーンはすべての天啓宗教の啓典の最後を締めくくるものであり、人類の現世と来世での生活に必要なとされるすべてが内包されており、その光明は創造主の領域において保持され、決して損失することはないのである。聖クルアーンは次の事柄に言及している。

ア 一切の疑念、濁りのない純粋で清浄な健全な信仰心イ 人間の実生活を律する力強い掟

ウ 自己を清め、悪徳を浄化し、善行の高みへと上昇する平穏な崇拝行為
エ 高貴な品性と人間関係

オ それを通して成長、発展、文明化へと至らせる高貴な教え

カ 現代宇宙論のさまざまな分野において発展へと導くしるしやその示唆

キ 過去、現在において人間が直面する多くの問題の解決への契機となる教え

したがって、アッラーが齎した最後の啓典である聖クルアーンを信仰することは、イスラームの義務なのである。

イスラームの中庸性：イスラームの中庸性は、崇高さ、偉大さ、純正さ、いかなる非難、欠陥、罪からかけ離れた存在である崇高かつ至高の創造主アッラーとその神性への信仰、そしてすべての預言者とその能力、権能への信仰、によって明確になる。

またイスラームの崇拝行為における公正さ、中庸性は、各人の能力以上のことは決して課されることはない、というところにも見出すことができ、それが実行されないことによって各人は罪に問われることはない。またそれは飲食、出費、浪費といった領域にも及ぶ。また公正さ、中庸性は各人の身体、精神における権利、必要性へも与えられる。これは預言者ムハンマドﷺの教友であり、かれから直接教えを乞うたスライマーンへの信頼からも窺い知ることができる。

- 「あなたはあなたの主人に対して責任があり、あなた自身に対して責任があり、あなたの家族に対して責任がある。したがってその権利を有するものすべてに対して、その権利を与えなさい。それを聞いた預言者ムハンマドﷺは、スレイマーンを正しいとされた。」（ブハーリーの伝承より）

イスラームこそは、公正かつ現世と来世とのバランスを保持することに成功した唯一の宗教であり、イスラームではその両方に然るべき権利が与えられているのである。

したがってイスラームを宗教として選択することが好ましい。なぜならイスラームこそが、崇高かつ至高のアッラーからの真に正しい宗教であることの根拠、証明に相応しいからである。

つまり一般的に人間は、どこで生活しようとも、いつその明証性が明らかになろうとも、真理を探求し、真理が解明されれば、それに付き従うものである。たとえば、ある文化圏で人々の間で長い間広く受け入れられた信仰、思想だからといって、それを正しい真の宗教だと解釈することは決して理性的な態度とは言えない。特にそこにはいかなる証拠、証明が存在しないにも関わらず、もしくはその他に代わる真実が見出せないからといって、単に祖先が信仰していた、などの理由で中立的立場に立って思考できないならば、自らの信仰に固執することは、なお一層正しい姿ではないだろう。

その証拠に、日本社会は長い間、天皇の神性を信仰してきたが、第二次世界大戦後にそれが誤りであることが明らかになったのである。

ほんの僅かな証拠もなく、論理的ほころび、矛盾があり、そこにはいかなる必然性も考えられないような単なる妄想や懐疑、推測に基づいた信仰や仮説を受け入れることは、至高のアッラーが人間に付与された理性という恩寵に対する裏切りであると言えるだろう。

よって、私たちはすべての人間を理性的かつ中立的な方法によって、イスラームへと誘う。

やがてかれらにもイスラームが真であることの証拠、根拠が明らかになるだろう。イスラームこそが崇高かつ至高なるアッラーからの真の宗教であり、イスラームという宗教が選ばれる理由なのである。



イスラームを選択することの来世での結果

至高のアッラーは仰せられた。

－「一方、信仰者としてかれの御許にやって来る者で、善行を確かになした者、それらの者、かれらには最高の諸位階がある。永住の楽園で、その下には河川が流れ、かれらはそこに永遠に。そしてそれは（己を）清めた者の報いである。」（ター・ハー：75，76）

祝福された至高のアッラーは、アッラーを信じ、その神聖の唯一性を信じ、善い行いをする者に対して、すべての報奨と報いをもってこの節を知らせられた。そして、誠実な意図をもって、アッラーに降伏し、その命令に対し服従する者に対する代償は、永遠の楽園での高い位階である。

イスラームにおける楽園の特徴

- 1 楽園の恩恵は永遠で、減ることも途切れることもない。
 - 2 楽園は光に満ち、装飾に満ちている。過度な暑さ、寒さもなく、そこに入ることを許される者は、幸福に包まれ不平不満を口にすることもない。
 - 3 楽園の大地は真っ白で、砂は良い香りに満ちた麝香のようで、小石は真珠やルビーのようである。
 - 4 楽園に建つ城は、金と銀でできた城である。
 - 5 楽園の河川は最も美しく、最も清浄である。そして量と種類に優れている。楽園には清浄な水の河川があったかと思えば、その美味で永遠に変わることはない乳香の河川、清浄な蜜の流れる河川もある。
 - 6 新緑溢れる庭園があり、その木々には花が咲き、たわわに実っている。
- 預言者ムハンマドﷺは言われる。

－「楽園にある木は、（その大きさゆえに）旅行者が100年かけてその影を通過できるものがある。」（ブハーリーの伝承より）

- 「楽園にある木の幹はすべて金でできている。」（ティルミズィーの伝承より）

7 楽園の実は豊かに実り、種類は豊富である。そしてそれは途切れることがない。

8 楽園には最高級かつさまざまな種類の食べ物、飲み物がある。

9 楽園には私たちの精神を豊かにし、視覚を愉しませるものが数多く存在する。その恩寵は、いまだかつて私たちが見たことなく、聞いたことがないようなものだが、心地良いものである。

イスラームの楽園に入った者の特質

1 その表情は優れ美しく、満月のように光り輝いている。

2 その身長は約30メートルである。

3 その年齢は33歳で、決して年をとらず若々しいままである。常に恵みに溢れ、決して死ぬことはない。

4 常に健康で、健康を損なったり病気になったりすることはない。

5 常に至高のアッラーからの恵みを受け、憤怒はない。傷付くことはなく、心配、困窮、悲しみ、不幸などもない。常に幸福であり、不満は一切ない。

6 至高のアッラーを仰ぎ見ることが許される。

7 楽園の民は、お互い憎しみあったり、妬みあったりすることなく、その心はまるで一人の人間のそれのように一つにまとまっている。

8 最高級の食べ物と飲み物を愉しむことができる。

9 喀痰もなく、鼻水もなく、小便、放屁もなく、その香りは麝香のそれよりも香しい。

10 楽園に入る者の力は、地上の者のそれより100倍優れている。

11 フーリルアイン（楽園の女性）との結婚。そしてもし楽園の女性が地上に眺めたならば、光り輝き、その善行と美しさから良い香りが放たれる。

また至高のアッラーは清純なムスリム女性を何度も新たに再生され、彼女たちはより美しくなる。そして彼女らは楽園で彼女の夫と再会するのである。

12 かれらの善行と美は、常に更新され途切れることがなく、むしろ増大する。

13 いかなる徒労感、障害もなく至高のアッラーの栄光を肌で感じ、かれを賛美する。

- 預言者ムハンマドﷺは言われた。

「至高のアッラーは楽園の者たちに向かって呼びかけられる。」

するとかれらは、「われらが主よ、私たちはここにいます。全ての良きはあなたの許にあります。」と言う。

「満足しているか？」

「満足できないことがありますでしょうか？あなたは私たちに他の被造物とは別に特別なものを与えて下さいました。」

「より良いものを与えるべきではなかったでしょうか？」

「主よ、これ以上良いものがありますでしょうか？」

「あなたは満足し、これ以上苦しむことはないだろう。」（ムスリムの伝承より）

- 預言者ムハンマドﷺは言われた。

「至高のアッラーは楽園の者たちに仰せられた。」

「他に何か望むものはあるか？」

「私たちの顔を輝かせてくれないのですか？私たちを楽園に入れ、火獄から救ってくれないのですか？」

「べールを取りなさい。創造主の御顔を目の当たりにするほど喜ばしいことがあるか。」（ムスリムの伝承より）



イスラームへの入信方法

実際のところ、私たちはイスラームへの入信方法、ではなくイスラームへの「再信方法」と言った方がより正確なのかも知れない。なぜならイスラームこそ、人間に生まれつき備わる天性に基づいた宗教だからである（イスラームは、皆ムスリムとしてこの世に生を受けるが、個々人が生まれ育った土着の風土、慣習によってその者の信仰が形成されると考えられている）。

とにかく、崇高かつ至高の創造主であるアッラーとその唯一性、そして最後の預言者であるムハンマドﷺのメッセージと宣教の正当性を心から信仰し、次の二つの信仰告白によってイスラームへの入信となる。

- 「私はアッラーのほかには神はないことを証言する。」

- 「私はムハンマドﷺはかれのしもべであり、使徒であることを証言する。」

いかなる儀式や公式行事も必要なく、この二つの信仰告白によって、晴れてムスリムとなることができる。そして世界中のムスリムがあなたという新しい兄弟（姉妹）を迎え入れてくれるのである。



ムスリム兄弟姉妹への提言

イスラームの恩恵、祝福された至高のアッラーからの善意に感謝し、新しくムスリムになられた兄弟姉妹たちにいくつか提言をさせて頂きたい。もちろん、これらはかれらだけに対してのものではなく、私自身、そして世界中の（今までムスリムとして生きてきた）ムスリムたちに対する提言でもある。

1－たとえ日常生活がどのようなものであれ、高貴なイスラームの教えとその導きに固執することの重要性。その実践の先に現世と来世での真の幸福が存在する。

2－全世界で高貴なイスラームのイメージを保持するため、預言者ムハンマドﷺの品性、人間関係から学ぶことの重要性。そのあとに、イスラームの実践的な宣教活動が開始される。

預言者ムハンマドﷺの妻アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は預言者ムハンマドﷺについて尋ねられたとき、次のように答えた。

－「預言者ムハンマドﷺの品性は、聖クルアーンそのものだった。」
（ムスリムの伝承より）

つまり、預言者ムハンマドﷺは聖クルアーンの教えを見事に体現し、その高貴な品性においてイスラームの体現者だったである。

3－この偉大な宗教（イスラーム）を広めるための実践的活動と真のイスラーム像の歪曲を試みる者たちへの挑戦。これはもちろん、イスラームが説く教育方法によって、また近代テクノロジーを駆使して行われるべきである。以下に、いくつかの例を挙げておく。

－イスラームの宣教に特化した多言語ウェブサイトの設立。

－イスラームの宣教に特化した放送局と衛星チャンネルの設立。また西洋とシオニストの手による反イスラーム番組に対する挑戦、そしてイスラーム像を意図的に歪曲しようとする誤った情報に対する正しい回答。

－イスラームの宣教に関連した多言語書籍の出版、諸文化センターや公共図書館、諸大学への分配。

これらの方法以外にも、さまざまなイスラームの宣教と説明の方法があるだろう。

－「そしてアッラーに呼び招き、善行をなし、「まことに、私は帰依した者たちの（一人）である」と言った者よりも言葉においてさらに美しいものが誰かあろうか。」（解説された：33）

最後に、私たちにイスラームという恩恵を齎された至高のアッラーを賛美し、また私たちがイスラームという宗教を通じて一つにまとめあげ、最後の預言者であり、メッセンジャーであるムハンマドﷺを賛美する。そしてこの偉大な宗教（イスラーム）を世界中に広めるために、私たちに善き道を示してくれることを、至高なるアッラーにお祈りする。

あなたの預言者であり使徒であるムハンマドﷺに平安と祝福がありますように。そしてその一族とその教友たち、また導かれた者たちと預言者の伝統を継承する者たち、に審判の日まで平安と祝福がありますように。

すべての賛美は万有の主アッラーにこそあり



www.islamic-message.net

Email: info_en@islamic-message.net

اليابان وتعاليم الإسلام، وكيفية حلّ الإسلام للمشاكل القديمة والمعاصرة

توجيهات وتعاليم إسلامية موافقة لمبادئ وتقاليد يابانية

كانت سببا في الرقي والتقدم والتحضّر

[باللغة اليابانية]

﴿إِنَّ اللَّهَ يَأْمُرُ بِالْعَدْلِ وَالْإِحْسَانِ وَإِيتَايَ ذِي الْقُرْبَىٰ وَيَنْهَىٰ عَنِ الْفَحْشَاءِ وَالْمُنْكَرِ

وَالْبَغْيِ يَعِظُكُمْ لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ﴿٩٠﴾﴾

[سورة النحل: ٩٠]

まことにアッラーは公正、心尽くし、近親への贈与を命じ給い、醜行、忌むべき行為、侵害を禁じ給う。かれはおまえたちに訓戒し給う、きっとおまえたちは留意するであろう。

(蜜蜂： 90)

イスラームの教えと日本文化—発展、文明化の要因となった—との共通点

ムハンマド・アルサイエド著

